
 ニ ュ ー ス

日本の火山活動概況（2014年7月～8月）

気 象 庁

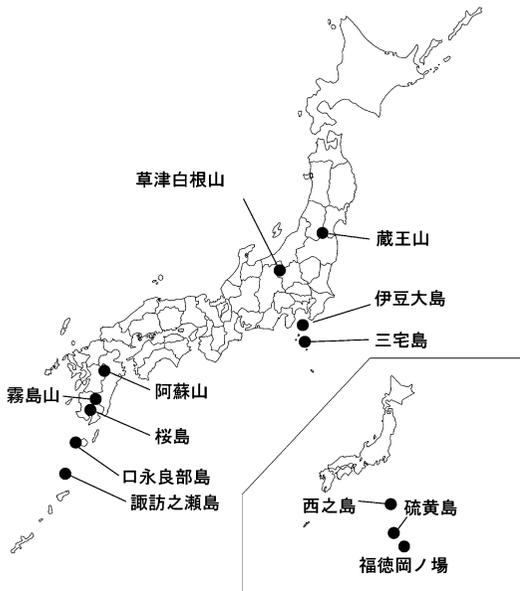


図 1. 2014年7月～8月に目立った活動があった火山

蔵王山 (38° 08' 37" N, 140° 26' 24" E)

8月6日、8日及び10日に各1回の火山性微動が発生した。6日の微動発生直後から、御釜直下付近の浅部が震源と推定される火山性地震が増加したが、これらの活動は中旬以降、低調になった。

坊平観測点の傾斜計で、8月6日06時頃から9日13時頃にかけて、南東（山頂の南側）上がりの変化がみられた。また、6日の微動発生に先行して、1～2分程度の明瞭な南東上がりの変化がみられた。

8月12日に実施した現地調査では、赤外熱映像装置による観測で、御釜とその周辺の状況に特段の変化は認められなかった。

草津白根山 (36° 38' 38" N, 138° 31' 40" E)

3月上旬から湯釜付近及びその南側を震源とする火山性地震が、消長を繰り返しながら多い状態が続いていたが、8月20日以降少ない状態で経過している。地殻変動観測によると湯釜付近の膨張を示す変動が認められている。東京工業大学によると、北側噴気地帯のガス成分に

も活動活発化を示す変化がみられている。また、全磁力観測による5月以降の湯釜近傍地下の温度上昇を示すと考えられる変化は、7月以降停滞している。

7月10日に実施した現地調査では、赤外熱映像装置による観測で、水釜火口内北東斜面と水釜火口北側の噴気温度は、前回（2013年9月27日及び11月5日）の観測と比較して高温領域の分布に特段の変化は認められなかった。

伊豆大島 (34° 43' 28" N, 139° 23' 40" E)

7月23日から25日及び28日から29日にかけて、島北部を震源とする火山性地震が増加した。この期間に震度1以上を観測する地震が17回発生し、このうち28日17時05分には最大震度3(マグニチュード3.7(暫定値))を観測した。

GNSSによる観測では、地下深部のマグマの供給によると考えられる島全体の長期的な膨張傾向が続いているが、2011年頃から鈍化してきている。その他の観測では、活動状態の変化を示すデータはみられなかった。

三宅島 (34° 05' 37" N, 139° 31' 34" E)

火山ガス放出量は、長期的に減少傾向にあり、2013年2月以降はやや少量となっている。三宅村によると、山麓ではまれにやや高濃度の二酸化硫黄が観測されている。

火山性地震はやや少ない状態で経過した。震源は山頂火口直下に分布しており、これまでと比べて特段の変化は認められなかった。火山性微動は観測されなかった。

GNSSによる観測では、2000年以降、山体浅部の収縮を示す地殻変動は徐々に小さくなり、2013年頃から停滞している。一方、島内の長距離の基線で2006年頃から伸びの傾向がみられるなど、山体深部の膨張を示す地殻変動が継続している。

西之島 (27° 14' 49" N, 140° 52' 28" E)

海上保安庁、海上自衛隊等の観測によると、噴火及び溶岩の流出が継続し、新たに形成された陸地の拡大が確認された。

8月26日に海上保安庁が実施した上空からの観測によると、新たな陸地の大きさは東西方向に約1,550m、南北方向に約1,250m、面積は約1.21km²になっているのが確認された。また、北側火口内の溶岩の湧き出し(溶岩マウンド)では、短い間隔で溶岩片を噴出する噴火を

繰り返しており、溶岩マウンドはほぼ楕円形で、大きさは長径約 90m、短径約 60m であることが確認された。

硫黄島 (24° 45′ 02″N, 141° 17′ 21″E (摺鉢山))

ミリオンダラーホールでは、2012 年 2 月上旬から水蒸気爆発が度々発生しているが、今期間、噴火の発生はなかった。

火山性地震は、3 月からやや多い状態で経過していたが、8 月に入ってから減少した。火山性微動が時々発生したが、火山性微動が観測された時間帯に、その他の観測データに特段の変化は認められなかった。地殻変動は、1 月頃から停滞していたが、2 月下旬頃から隆起の傾向がみられている。

海上自衛隊の協力により、8 月 4 日から 6 日にかけて以下の地域で現地調査を実施した。

『阿蘇台陥没孔の状況』

阿蘇台陥没孔の噴気の高さは 20m 以下であった。前回 (2014 年 3 月) 調査と同様孔の中の湯だまりは認められなかった。阿蘇台陥没孔北側の断層面及び地熱域での地中温度は前回調査時に比べて大きな変化はなかった。

『その他の硫黄島内の状況』

摺鉢山、離岸温泉跡、金剛岩、ミリオンダラーホール (旧噴火口)、井戸ヶ浜、硫黄ヶ丘及び翁浜などその他の地域では、噴気や地熱、地形等の状況は、前回 (2014 年 3 月) までの現地調査で確認された熱活動や地形と特段の変化は認められなかった。

福徳岡ノ場 (24° 17′ 05″N, 141° 28′ 52″E)

8 月 6 日に海上自衛隊の協力により実施した上空からの観測では、福徳岡ノ場付近では変色水等は認められなかった。

福徳岡ノ場ではしばしば火山活動によるとみられる変色水や浮遊物が確認されており、2010 年 2 月 3 日には小規模な海底噴火が発生している。

阿蘇山 (32° 53′ 01″N, 131° 05′ 49″E (中岳))

7 月 17 日に実施した現地調査では、中岳第一火口の湯だまりが火口底から消失しているのを確認した (1993 年 2 月 25 日以来)。

中岳第一火口では、8 月下旬から孤立型微動や火山性地震が次第に増加し、火口内の熱活動も高まるなど、火山活動はやや高まった状態となった。

8 月 30 日 09 時頃に実施した現地調査により、中岳第一火口の噴火の発生を確認した。このことから、中岳第一火口の火山活動は高まった状態になっていると判断し、30 日 09 時 40 分に火口周辺警報を発表し、噴火警戒

レベルを 1 (平常) から 2 (火口周辺規制) に引き上げた。

霧島山 (新燃岳) (31° 54′ 34″N, 130° 53′ 11″E)

新燃岳では、今期間噴火の発生はなかった。

新燃岳直下を震源とする火山性地震は少ない状態で経過した。

GNSS による観測では、新燃岳の北西数kmの地下深くにあると考えられるマグマだまりの膨張を示す地殻変動は、2011 年 12 月以降鈍化・停滞していたが、2013 年 12 月頃から伸びの傾向がみられている。

霧島山 (えびの高原 (硫黄山) 周辺) (31° 56′ 49″N, 130° 51′ 14″E (硫黄山))

2013 年 12 月以降、韓国岳付近、韓国岳北東側、硫黄山付近で火山性地震が時々発生している。8 月 20 日 01 時 36 分頃には、継続時間約 7 分の火山性微動を観測した。

桜島 (31° 34′ 38″N, 130° 39′ 32″E (南岳))

昭和火口では、活発な噴火活動が継続した。噴火の回数は、7 月が 31 回 (そのうち爆発的噴火は 20 回)、8 月が 89 回 (そのうち爆発的噴火は 75 回) であった。爆発的噴火のうち 26 回 (7 月 4 回、8 月 22 回) では、大きな噴石が 4 合目まで飛散した。噴煙の高さの最高は、8 月 31 日 15 時 07 分及び 18 時 12 分に発生した爆発的噴火による火口縁上 3,000m であった。同火口では、夜間に高感度カメラで明瞭に見える火映を時々観測した。

南岳山頂火口では、7 月 28 日に噴煙の高さが火口縁上 200m のごく小規模な噴火が発生した (5 月 10 日以来)。

火山性地震の月回数は少ない状態で経過し、噴火に伴い火山性微動が発生した。今期間実施した現地調査では、二酸化硫黄の放出量は 1 日あたり 1,700~2,000 トンと多い状態であった。

島内の傾斜計では、4 月頃から山体が隆起する傾向がみられていたが、7 月中旬から山体が沈降する傾向となっている。GNSS 連続観測では桜島島内の基線で、2014 年 1 月頃から伸びの傾向がみられていたが、7 月から停滞している。

鹿児島地方気象台における降水量は、月合計で 7 月が 3g/m²、8 月が 6g/m² であった。鹿児島県が実施している降灰の観測データから推定した火山灰の総噴出量は、7 月が約 30 万トン、8 月が約 10 万トンであった。

口永良部島 (30° 26′ 36″N, 130° 13′ 02″E)

8 月 3 日 12 時 24 分頃、新岳で噴火が発生し、灰色の噴煙が火口縁上 800m 以上まで上がった。このため、3 日 12 時 50 分に火口周辺警報 (噴火警戒レベル 3、入山

規制)を発表し、噴火警戒レベルを1(平常)から3(入山規制)に引き上げた。また、火山灰を分析した結果、マグマが直接関与していた可能性があることがわかり、今後、マグマが関与した噴火が発生した場合、火砕流が発生する可能性があることから、7日10時00分に火口周辺警報(噴火警戒レベル3、入山規制)を切り替えた。

8月3日、5日、6日に鹿児島県及び九州地方整備局の協力により実施した上空からの観測では、新岳山頂火口の南西側から西側にかけてと東側で、3日の噴火に伴う低温の火砕流の痕跡を確認した。また、南西側では海岸近くまで火山灰や火山ガスによる樹木の変色を確認した。山頂付近では、新岳火口縁の西側に3日の噴火に伴う新たな割れ目及び新岳火口の北側の一部がわずかに広がっていることを確認した。新岳火口東側の割れ目火口(1980年の噴火)及び古岳火口は、これまでの調査と比べ、特段の変化は認められなかった。

また、8月13日、20日、21日、28日に実施した火山ガ

ス観測では、二酸化硫黄の放出量は、1日あたり200~400トンと噴火前(前回5月21日:60トン)より増加していた。

諏訪之瀬島 (29° 38' 18" N, 129° 42' 50" E (御岳))

御岳火口で、8月28日から噴火活動が活発になり、28日12時50分に発生した噴火では、灰白色の噴煙が火口縁上2,000mまで上がった(2008年10月23日以来)。今期間、爆発的噴火は発生しなかった。期間を通して夜間に高感度カメラで火映を時々観測した。

(お知らせ) 最新の火山活動解説資料は気象庁ホームページの以下のアドレスに掲載しています。

URL http://www.data.jma.go.jp/svd/vois/data/tokyo/STOCK/monthly_v-act_doc/monthly_vact.htm
(文責:気象庁地震火山部火山課 橋本祐樹)

日本の火山活動概況 (2014年9月~10月)

気 象 庁

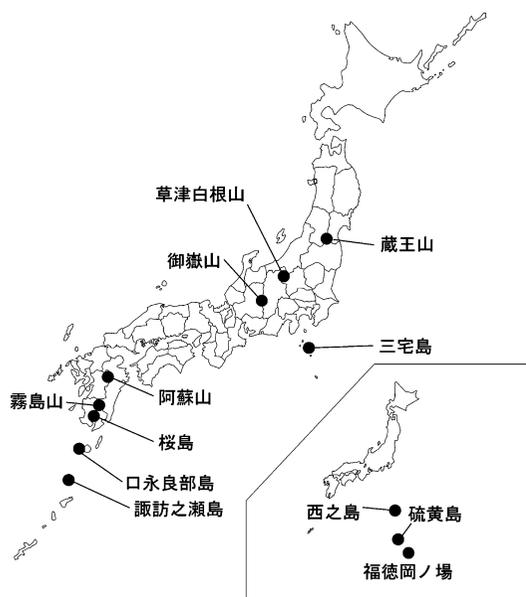


図 1. 2014年9月~10月に目立った活動があった火山

蔵王山 (38° 08' 37" N, 140° 26' 24" E)

火山性微動が9月に2回、10月に4回発生するなど8月以降地震活動の高まりがみられる。

坊平観測点の傾斜計で、9月30日の微動発生に先行して、わずかな南東(山頂の南側)上がりの変化がみられ、微動発生後の同日夕方頃からはわずかな東(山側)上がりの変化が始まったが、10月11日頃まで継続して終了した。また、10月9日の微動発生直前から、数分間継続する南東上がりの変化がみられた。

山形大学の調査によると、10月8日、19日に御釜の東側湖面の一部に白濁が確認された。

10月9日、20日、24日に実施した現地調査では、御釜に白濁はみられず、御釜周辺に地熱や噴気は認められなかった。

草津白根山 (36° 38' 38" N, 138° 31' 40" E)

3月上旬から湯釜付近及びその南側を震源とする火山性地震が、消長を繰り返しながら多い状態が続いていたが、8月20日以降少ない状態で経過している。地殻変動観測によると湯釜付近の膨張を示す変動が認められている。東京工業大学によると、北側噴気地帯のガス成分にも活動活発化を示す変化がみられている。また、全磁力観測による5月以降の湯釜近傍地下の温度上昇を示すと考えられる変化は、7月以降停滞している。

9月24日に群馬県の協力により実施した上空からの

観測では、赤外熱映像装置による観測で、湯釜火口内北側斜面、北側噴気地帯で、前回(2014年6月23日)の観測と比較して高温領域の分布に特段の変化は認められなかった。

御嶽山 (35° 53′ 34″N, 137° 28′ 49″E)

9月27日11時52分頃、噴火が発生した。山頂付近の噴火時の状況は視界不良のため不明であったが、中部地方整備局が設置している滝越カメラにより火砕流が南西方向に流れ下り、3kmを超えたことを観測した。27日12時36分に火口周辺警報を発表し、噴火警戒レベルを1(平常)から3(入山規制)に引き上げた。また、28日19時30分に火口周辺警報(入山規制)を切り替え、火砕流への警戒を追加した。なお、その後の調査により、火砕流は南西方向に約2.5キロメートル及び北西方向に約1.5キロメートル流下したことを確認した。

噴火発生後も火山灰を噴出するような噴火が続いていたが、噴煙に含まれる火山灰の量が少なくなり、10月10日21時過ぎからは、噴煙が白色となった。

東京大学地震研究所他が実施した調査によると、9月27日の噴火の噴出物の総体積(重量)は、50万トン前後と考えられている。

火山性微動は、噴火発生11分前の9月27日11時41分頃発生し、噴火発生後も振幅の増減を繰り返しながら長時間継続した。10月1日19時頃からは検知できない程度の大きさになったが、2日19時30分頃から再び観測され始めた。その後振幅は小さいながらも継続したが、7日以降は、検知できない程度の大きさになった。火山性地震は、噴火発生直後は多い状態であったが、次第に減少し、7日以降はやや少ない状態で経過した。

御嶽山の南東約3kmに設置している傾斜計では、噴火発生7分前から山側上がりの変化がみられ、噴火とともに山側下がりとなるような変化が観測された。その後も緩やかな山側下がりの変化が続いている。

9月28日以降、上空及び山麓で実施した火山ガス観測では、二酸化硫黄の放出量は、10月4日頃までは1日あたりおよそ500~1500トンで推移していたが、その後は1日あたりおよそ100~500トンとやや少ない状態で推移している(観測データはいずれも速報値)。

降灰の拡がりについて聞き取り調査を行った結果、御嶽山の西側の岐阜県下呂市萩原町から東側の山梨県笛吹市石和町にかけての範囲で降灰が確認された。東京大学地震研究所の現地調査によると、御嶽山の北東山麓を中心に降灰が確認された。産業技術総合研究所の分析によると、噴出した火山灰には新鮮なマグマに由来する物質は認められなかった。

三宅島 (34° 05′ 37″N, 139° 31′ 34″E)

火山ガス放出量は、長期的に減少傾向にあり、2013年2月以降はやや少量となっている。三宅村によると、山麓ではまれにやや高濃度の二酸化硫黄が観測されている。

火山性地震はやや少ない状態で経過した。震源は山頂火口直下に分布しており、これまでと比べて特段の変化は認められなかった。火山性微動は観測されなかった。

GNSSによる観測では、2000年以降、山体浅部の収縮を示す地殻変動は徐々に小さくなり、2013年頃から停滞している。一方、島内の長距離の基線で2006年頃から伸びの傾向がみられるなど、山体深部の膨張を示す地殻変動が継続している。

西之島 (27° 14′ 49″N, 140° 52′ 28″E)

海上保安庁、海上自衛隊等の観測によると、噴火及び溶岩の流出が継続し、新たに形成された陸地の拡大が確認された。

9月17日に海上保安庁が実施した上空からの観測によると、8月26日に確認された溶岩マウンドは、一部を残してその北側に形成された新たな火砕丘に埋没しているのが確認された。10月16日に海上保安庁が実施した上空からの観測によると、火砕丘の火口からは短い間隔で溶岩片と共に褐色の噴煙を放出する噴火(ストロンボリ式噴火)を繰り返しているのが確認された。また、新たな陸地の大きさは東西方向に約1,530m、南北方向に約1,720m、面積は約1.85km²になっているのが確認された。

硫黄島 (24° 45′ 02″N, 141° 17′ 21″E (摺鉢山))

ミリオンダラーホールでは、2012年2月上旬から水蒸気爆発が度々発生しているが、今期間、噴火の発生はなかった。

火山性地震は、やや少ない状態で経過した。火山性微動が時々発生したが、火山性微動が観測された時間帯に、その他の観測データに特段の変化は認められなかった。地殻変動は、2月下旬頃から隆起の傾向がみられていたが、9月頃からは停滞の傾向である。

福徳岡ノ場 (24° 17′ 05″N, 141° 28′ 52″E)

9月12日に海上自衛隊の協力により実施した上空からの観測では、福徳岡ノ場付近では変色水等は認められなかった。

福徳岡ノ場ではしばしば火山活動によるとみられる変色水や浮遊物が確認されており、2010年2月3日には小規模な海底噴火が発生している。

阿蘇山 (32° 53′ 01″N, 131° 05′ 49″E (中岳))

中岳第一火口では、9月1日及び6日から7日にかけてごく小規模な噴火が発生した。また、10月22日夜から23日未明にかけて、ごく小規模な噴火が発生したと考えられる。8月下旬から孤立型微動や火山性地震は多い状態となり、火口内の熱活動も高温の状態を経過するなど、火山活動は高まった状態が続いている。

霧島山 (新燃岳) (31° 54′ 34″N, 130° 53′ 11″E)

新燃岳では、今期間噴火の発生はなかった。

新燃岳直下を震源とする火山性地震は少ない状態を経過した。

GNSSによる観測では、新燃岳の北西数kmの地下深くにあると考えられるマグマだまりの膨張を示す地殻変動は、2011年12月以降鈍化・停滞していたが、2013年12月頃から伸びの傾向がみられている。

霧島山 (えびの高原 (硫黄山) 周辺) (31° 56′ 49″N, 130° 51′ 14″E (硫黄山))

2013年12月以降、韓国岳付近、韓国岳北東側、硫黄山付近で火山性地震が時々発生している。2014年8月20日に、硫黄山付近を震源とする継続時間約7分の火山性微動が発生した。微動の発生に伴い傾斜計で硫黄山の北西が隆起するような変動が観測された。これらのことから、えびの高原 (硫黄山) 周辺では火山活動が高まっており、噴気や火山ガスなどが噴出し、今後の状況によっては小規模な噴火が発生する可能性があるかと判断し、10月24日10時00分に火口周辺警報 (火口周辺危険) を発表した。

10月7日に海上自衛隊第72航空隊鹿屋航空分遣隊の協力により実施した上空からの観測では、えびの高原の硫黄山、韓国岳、大浪池、白紫池、六観音御池及び不動池では噴気活動は認められなかった。また、大浪池、白紫池、六観音御池、不動池及び大幡池では、火山活動に起因すると考えられる湖水の白濁や浮遊物は確認されなかった。

10月21日及び25～28日に行った現地調査では、硫黄山、韓国岳北側に噴気は認められなかった。赤外熱映像装置による観測では、硫黄山、韓国岳北側に熱異常域は認められなかった。

桜島 (31° 34′ 38″N, 130° 39′ 32″E (南岳))

昭和火口では、活発な噴火活動が継続した。噴火の回数は、9月が178回 (そのうち爆発的噴火は99回)、10月が28回 (そのうち爆発的噴火は19回) であった。爆

発的噴火のうち2回 (9月2回) では、大きな噴石が3合目まで飛散した。噴煙の高さの最高は、10月24日12時05分に発生した爆発的噴火による火口縁上3,200mであった。同火口では、夜間に高感度カメラで明瞭に見える火映を時々観測した。

南岳山頂火口では、9月7日にごく小規模な噴火が発生した (7月28日以来)。

火山性地震の月回数は少ない状態を経過し、噴火に伴い火山性微動が発生した。今期間実施した現地調査では、二酸化硫黄の放出量は1日あたり1,200～2,100トンと多い状態であった。

島内の傾斜計では、7月中旬から山体が沈降する傾向がみられている。GNSS連続観測では桜島島内の基線で、2014年1月頃から伸びの傾向がみられていたが、7月頃から停滞している。

鹿児島地方気象台における降水量は、月合計で9月が548g/m²、10月が141g/m²であった。鹿児島県が実施している降灰の観測データから推定した火山灰の総噴出量は、9月が約60万トン、10月が約30万トンであった。

口永良部島 (30° 26′ 36″N, 130° 13′ 02″E)

新岳火口の噴煙活動は、8月3日の噴火以降、やや活発となっており、白色の噴煙が概ね火口縁上100～200mで経過し、噴煙の高さの最高は600mであった。

火山性地震は時々発生した。また、継続時間の短い振幅の小さな火山性微動を9月3日と4日に観測した。

9月12日～16日に実施した現地調査では、新岳火口や西側割れ目付近から噴煙が上がっているのを確認した。山麓から実施した赤外熱映像装置による観測では、新岳火口西側の割れ目付近で熱異常域を観測したが、大きな変化は認められなかった。また、10月7日および8日に実施した現地調査では、引き続き新岳火口および西側割れ目付近で噴煙が上がっているのを確認したほか、新たに新岳の南西斜面で噴気が上がっているのを確認した。赤外熱映像装置による観測では、引き続き新岳火口縁の西側および西側の割れ目付近で熱異常域を確認したほか、南西斜面の新たな噴気地帯も熱異常域となっているのを確認した。

今期間に実施した火山ガス観測では、二酸化硫黄の放出量は、1日あたり300～500トンと噴火前 (前回5月21日:60トン) よりも多い状態であった。

諏訪之瀬島 (29° 38′ 18″N, 129° 42′ 50″E (御岳))

御岳火口では、8月28日12時50分に噴火が発生し、その後も断続的に噴火が発生した。9月3日10時49分に発生した噴火では、灰白色の噴煙が最高で火口縁上

2,200mまで上がった。また、10月7日、17～21日にかけても噴火が発生した。今期間、爆発的噴火は発生しなかった。期間を通して夜間に高感度カメラで火映を時々観測した。

十島村役場諏訪之瀬島出張所によると、9月15日、16日、26日、27日に集落(御岳の南南西約4km)で降灰が確認された。また、9月27日、28日、10月25日に島内で鳴動が確認された。

(お知らせ) 最新の火山活動解説資料は気象庁ホームページの以下のアドレスに掲載しています。

URL http://www.data.jma.go.jp/svd/vois/data/tokyo/STOCK/monthly_v-act_doc/monthly_vact.htm

(文責：気象庁地震火山部火山課 橋本祐樹)

○公募等

締切等が過ぎているものも記録のため掲載してあります。

最新の情報につきましては、メーリングリスト等にて随時ご案内しております。

○人事公募

【東京大学地震研究所】

1. 公募人員：教授又は准教授 若干名
2. 期間：平成27年4月1日～平成28年3月31日
(1年間)
3. 申込資格：国立大学法人・公・私立大学及び国、公立研究機関の教授もしくは准教授又はこれに準ずる研究者
4. 研究分野：地震・火山および関連諸分野の研究
5. 公募締切：平成26年10月31日(金)【必着】
6. 提出書類：○応募用紙(様式V-1)1部
○履歴書(様式V-2)1部
○研究計画に関連した業績リスト(必ずタイプすること)
出来れば参考となる主要論文の別刷1部
なお、応募に際しては必ず所属機関長の承諾を得ること。
7. 応募先：〒113-0032 東京都文京区弥生1-1-1
東京大学地震研究所 研究支援チーム(共同利用担当)
TEL 03-5841-5710, 1769
※応募に関するお問い合わせは上記をお願いします。
8. 注意事項：客員教員応募書類在中の旨を記し、簡易書留で送付すること。
9. 選考方法：本研究所共同利用委員会が決定する。
10. 採否の決定：客員教員の採否は、本研究所共同利用委

員会が決定します。採否の決定は、平成27年3月下旬までに行われ、結果を書面により通知します。

(上記のお知らせは火山学会メーリングリストに9月3日送信しました)

【東北大学 大学院理学研究科】

募集人員：教授1名

所属講座：地学専攻、地球惑星物質科学講座

募集分野：

地学専攻、理学部地球惑星物質科学科における鉱物科学(鉱物結晶学、鉱物物理学、結晶成長学、環境鉱物学、応用鉱物学、計算鉱物学、電子顕微鏡鉱物学、およびその関連分野)の研究と教育を中心となって推進し、地学専攻や他専攻・他研究科等、学内外の研究者と協力しながら、国際的な場で積極的に活動し、大学改革に伴う研究・教育プログラムの推進にご尽力頂ける方。大型外部資金獲得に実績があり積極的な方。先端的な研究分野において博士課程大学院生を指導し、若手研究者を世界に送り出すことに注力頂ける方が望ましい。

担当科目：理学研究科・理学部と全学教育における地球

惑星科学関係の講義・演習・室内実習・野外実習等

応募資格：博士の学位を有する者

着任予定：平成27年4月1日以降のできるだけ早い時期
提出書類：

1. 履歴書(写真貼付、連絡先明記のこと)
2. 研究業績リスト
(1) 論文(査読の有無を記すこと)(2) 著書(3) その他
3. 主要論文10編の別刷り各1部(コピー可)
4. 在外研究歴・研究教育に関する受賞歴・外部資金獲得実績リスト
5. これまでの教育・学生指導・研究実績の概要(A4用紙2頁程度)
6. 着任後の研究・教育に関する抱負(A4用紙4頁程度)
関連学問分野のレビューと将来展望を踏まえた上で、基本的な方針と具体的な計画について、適宜図表等を用いて記載してください。
7. 照会可能な方2名の氏名と連絡先
応募締切日：平成26年11月14日(金)必着
書類送付先：〒980-8578 仙台市青葉区荒巻字青葉6-3
東北大学大学院理学研究科地学専攻事務室 宛
応募書類送付に際しては、封筒表面に「教員応募書類在中」と朱書きし、簡易書留郵便にすること。応募書類は原則返却致しません。また、審査において面接を行う場合、交通費は応募者の負担とします。

照会先：東北大学大学院理学研究科地学専攻，専攻長
中村美千彦

電話 022-795-7762, FAX 022-795-6675

e-mail：nakamm@m.tohoku.ac.jp

その他：当該講座を含む地学専攻，地球惑星物質科学科
の構成員と研究内容は，下記の URL をご参照下さい。

URL：http://www.es.tohoku.ac.jp/JP/index.html

なお，東北大学では，大学内での女性研究者比率向
上に努めています（URL：http://www.morihime.tohoku.
ac.jp/ge_center/ をご覧下さい）。

（上記のお知らせは火山学会メーリングリストに9月5
日送信しました）

【東北大学 東北アジア研究センター】

1. 公募分野：東北アジア研究センター 基礎研究部門
地球化学研究分野

2. 職名：教授 1名

3. 専門分野：

地質学，岩石学，鉱床学，鉱物学，地球化学，火山学
などの研究分野。その上で，ロシア，モンゴル，中国，
朝鮮半島及び日本などの東北アジア，およびその周
辺海域を研究対象とした実績があること。

4. 応募資格：

博士の学位を持ち，専門分野において卓越した業績
を有すること。

フィールド研究の経験を有し，東北アジアやその周
辺海域を対象とする研究に対して熱意を有する者。
また，文系など異分野との研究連携や専門の研究を
地域社会との関わりを意識しながら行うことに前向
きである者。理学研究科地学専攻の教員と共同で研
究や学生の教育ができる方。国籍を問わない。英語
による十分な研究教育能力と，日本語による事務処
理能力を有すること。

5. 担当授業科目：

（学 部）地球惑星物質科学関連科目及び地質調査の
指導

（大学院）上記の専門分野にかかわる大学院理学研究
科に必要な授業科目

6. 採用予定日：平成27年4月1日以後のなるべく早い
時期

7. 応募締切日：平成26年11月28日（金）必着

8. 提出書類：

以下の書類を印刷形態で1部と電子ファイルで1
部（CDに収める）ご提出ください。

主要な業績10点については，紙媒体の他にPDF
等を添付することが望ましいですが，書籍などで難

しい場合，紙媒体のみを提出いただいても結構です。

(1) 履歴書（写真貼付のこと）

(2) 研究業績一覧

1. 学術論文（査読あり）

2. 学術論文（査読なし）

3. 学会等論文集（査読あり）

4. 学会等論文集（査読なし）

5. 著書

6. 解説論文

7. その他に分類の上，著者名の中でご自身のお
名前にアンダーラインを付してください。

(3) 主要な業績10点（別刷り・コピー可，各1部）
それぞれに400字程度の日本語の要旨をつける
こと。

(4) 今までの研究について，上記10点に触れつつレ
ビューを行ってください。日本語で2000字以
内。

(5) ご専門の立場から，着任後の東北アジア地域に
関わる研究及び教育に対する抱負を書いてくだ
さい。日本語で2000字以内。

(6) 海外のフィールド調査の経験，国内および国際
共同研究の企画・参加状況，海外の研究者・研究
機関との交流状況，シンポジウム及び国際会議
の開催・招待講演，所属学会，新聞寄稿，政策提
言等，及び審議会委員その他各種社会貢献，等々
が分かるデータの一覧（該当する項目について
記載すること。海外調査および海外との交流状
況については，日本を除く東北アジア地域諸国
に関するものについて特記すること。）

(7) 現在までに取得した科学研究費補助金等の各種
外部資金のデータ一覧

(8) 教育経験が分かる授業科目等のデータ一覧（平
成26年度を含む最近5カ年間）授業科目名と指
導学生数（博士・修士の学位授与に関わった場合
はそれについても記載すること）など。

(9) 現在の所属機関での各種委員会や運営面で果た
した役割（平成26年度を含む最近5カ年間）

(10) その他研究教育等の面で特記事項がある場合は，
1000字以内で記載すること。（ない場合は提出
不要。）

(11) 照会可能な方2名の氏名と連絡先（e-mail アド
レスを含む）

(12) その他審査の必要に応じて資料・書類提出を求
めることがある。

9. 待遇：任期なし。その他，本学職員就業規則に基づく。

10. 書類提出先：

〒980-8576 仙台市青葉区川内 41 番地 東北大学
東北アジア研究センター長宛
(書類を入れた封筒の表に「教員公募関係書類(地球
化学研究分野)」と朱書き、「書留」で郵送して下さい。

11. 問合せ：

TEL 022-795-6009 (東北アジア研究センター事務室
高橋篤志)

E-mail : asiajimu@cneas.tohoku.ac.jp

(できるだけ E-mail での問合せをお願いします。)

12. その他：

選考にあたっては面接を実施することがあります。
なお、本人事は「男女共同参画」の理念に基づくもの
であることを申し添えます。

本センターに関する詳細は、ホームページをご覧ください。

(上記のお知らせは火山学会メーリングリストに 9 月 5
日送信しました)

【茨城大学理学部】

1. 職名・人数：教授または准教授(常勤・任期なし)
1 名
2. 所属(専門分野)：理学部地球環境科学領域(防災科学
JABEE プログラム)
3. 応募資格：
 - (1) 技術者教育認定機構(JABEE)認定プログラム(地球科学技術者養成プログラム)に関連する分野の教育・研究に主体的に携わっていただける方。具体的科目としては、「防災地質学」、「環境リスクマネジメント」、「科学と倫理」、デザイン能力の育成に関わる科目等が担当できる方、また野外での調査や観測の指導ができ、教養科目も担当できる方。
 - (2) 博士の学位を有し、大学院理工学研究科(博士前期課程・博士後期課程)で教育・研究の指導ができる方。
 - (3) 学部生・大学院生の教育と研究指導に熱意を持ってあたり、地球環境科学領域の教員と協力して教育・研究を意欲的に推進できる方。
 - (4) 技術士の資格を有する方。
4. 採用予定日：平成 27 年 4 月 1 日
5. 応募締切：平成 26 年 11 月 10 日(月) 必着
6. 提出書類：
 - (1) 履歴書(市販のもので可、写真貼付)
 - (2) 研究業績目録(以下のように区分して記載)
 - A. 査読付きの論文(総説を含む)
 - B. 査読のない論文(総説を含む)

C. 著書

D. 報告書その他の出版物で特に参考になるもの

- (3) 主な論文の別刷または著書 5 編以内(複写可)とその内容の簡単な解説
- (4) これまでの研究経過と教育活動(国外・国内の共同研究への参加状況、国際・国内学会での主な講演、受賞、現在までに取得した競争的資金、教育経験など、特記すべき事柄を含めてください。A4 用紙 2 枚程度)
- (5) 教育への抱負(A4 用紙 1 枚程度)
- (6) 今後の研究計画(A4 用紙 1 枚程度)
- (7) 応募者について参考意見をいただける方(2 名)の氏名および連絡先(所属、住所、連絡先、E-mail)封筒の表に「JABEE プログラム教員応募書類在中」と朱書き、書留にて郵送してください。なお、応募書類は希望されない限り返却いたしませんので、返却を希望される方は、宛名を書いた返信用封筒(切手貼付)を同封してください。

7. 書類送付先および問い合わせ先：

〒310-8512 水戸市文京 2-1-1

茨城大学理学部教員選考委員会(地球環境科学領域)
委員長 藤縄明彦

TEL : 029-228-8398

E-mail : fujinawa@mx.ibaraki.ac.jp

8. 参考：

当学部、領域の概要、メンバー等は、下記ホームページを参照してください。

<http://www.sci.ibaraki.ac.jp/>

<http://www.sci.ibaraki.ac.jp/generalinfo/teacher/>

9. その他：

書類審査による第一次選考の後、第二次選考として、研究に関する講演をしていただき、領域メンバーによる教育・研究に関する面接を行います。なお、講演並びに面接への旅費等は個人負担にてお願いいたします。

〈個人情報利用目的について〉

茨城大学理学部の教員公募に関連して提供された個人情報については、選考の目的に限って利用し、選考終了後は、選考を通過した方の個人情報を除き、すべての個人情報は責任をもって破棄いたします。

(上記のお知らせは火山学会メーリングリストに 9 月 16
日送信しました)

【東京大学地震研究所】

1. 公募人員：教授 1 名

2. 所属：採用後に決定（地震火山噴火予知研究推進センター・観測開発基盤センター・地震火山情報センターのいずれか）
3. 研究分野：観測固体地球科学分野
地震研究所は、観測固体地球科学の国際的拠点として、国際地震・火山研究推進室（国際室）を設置し、世界各国の研究・教育機関と連携した研究・教育活動を展開している。本公募では、国際室の運営において中核的役割を果たすとともに、所内の教員と協力し、観測固体地球科学に関する国際的な研究プロジェクトや国際的教育活動を企画立案・推進する人材を募集する。また、固体地球科学に関連する専門分野について研究・大学院教育にも従事する。
4. 採用予定時期：採用決定後のできるだけ早い時期
5. 応募資格：博士の学位を有する者（外国での同等の学位を含む）
6. 任期について：本研究所の教員の任期に関する内規により、満55歳を超える教員については、次年度の初めに教員の所属する組織（分野）の職に5年以内の任期を定める。再任は本研究所教授会の承認を得た場合に1回限り可とする（ただし、東京大学教員の就業に関する規程に定めるところの定年による退職の日を超えることはできない）。なお、詳細については、問い合わせ先に照会のこと。
7. 提出書類：【提出書類は返却しません】
 - (1) 履歴書（市販用紙可）
 - (2) 業績リスト（査読の有無を区別すること、投稿中の論文も含む。）
 - (3) 主要論文の別刷り3編程度（コピー可）
 - (4) 研究・教育業績の概要（国際共同研究の詳細・応募者が果たした役割を含む）（2000字程度）
 - (5) 今後の研究・教育計画ならびに国際室業務への抱負（2000字程度）
 - (6) 応募者について参考意見をうかがえる方（2名）の氏名と連絡先とE-mailアドレス
8. 応募締切：平成27年1月5日（月）午後4時 必着
9. 問い合わせ先：東京大学地震研究所
地震火山情報センター 佐竹健治
TEL：(03) 5841-0219
E-mail：satake@eri.u-tokyo.ac.jp
10. 応募書類提出先：
〒113-0032 東京都文京区弥生 1-1-1
東京大学地震研究所 庶務チーム（人事）宛
封書を用い、表に「観測固体地球科学分野 教授 応募書類在中」と朱書きし、書留郵便で送付してください。
◎東京大学は2009年3月3日「男女共同参画加速の

ための宣言」を発表しました。

この宣言に基づき、教員・研究員の公募の際に、女性の応募を歓迎します。

（上記のお知らせは火山学会メーリングリストに10月2日送信しました）

【大阪教育大学 教育学部】

1. 職名及び人員 准教授又は講師 1名
2. 所属講座 自然研究講座
3. 専門分野 自然科学（固体地球科学分野）
4. 担当授業科目
（学 部）自然科学実験Ⅰ、情報処理演習、自然科学ゼミナールなど
（大学院）宇宙地球圏システム論ゼミナールⅠ、宇宙地球圏システム論ゼミナールⅡ、宇宙地球圏システム特別研究
5. 応募資格
 - (1) 博士の学位を有する方
 - (2) 国際交流に理解と意欲のある方
 - (3) 理科教諭養成教育に理解と意欲のある方
6. 採用予定日 平成27年04月01日
7. 応募締切日 平成26年11月10日（月）17：00【必着】
8. 提出書類
 - (1) 個人調書（本学所定の様式による、写真貼付のこと）
 - (2) 個人調書に記載の業績に関する別刷り又は写し（主要5部）
 - (3) これまでに行ってきた研究・教育の概要（1,000字程度）
 - (4) 今後の研究・教育に対する抱負（1,000字程度）
 - (5) 照会可能な方2名の氏名と連絡先

※提出書類については選考結果と共に返却しますので、返却先を記載の上サイズに応じてレターバックプラス又は着払用のゆうパックのシールを同封してください。なお、選考結果の発送については、本学Webサイトの「採用情報」にてお知らせします。
9. 書類提出先
〒582-8582 大阪府柏原市旭ヶ丘4-698-1
大阪教育大学管理部人事課人事係あて
（封筒に「自然研究講座教員応募書類在中」と朱書きし、簡易書留で郵送してください。）
10. 問い合わせ先 人事課人事係
TEL 072-978-3233 FAX 072-978-3243
E-mail ninyo@bur.osaka-kyoiku.ac.jp

11. その他

- ・選考過程で面接をすることがあります。面接に伴う旅費は自己負担です。
- ・本学の大学教員の定年年齢は、満 65 歳です。
- ・「大阪教育大学男女共同参画推進行動計画」に基づき、男女比率のバランスに配慮した採用を進めておりますので、女性の応募を歓迎します。(本学の男女共同参画推進の取組状況は本学 Web サイトをご覧ください。)
- ・退職手当の基礎となる在職期間の通算は、法人化前の取扱いとは異なります。

退職手当関係については、お問い合わせください。

(上記のお知らせは火山学会メーリングリストに 10 月 2 日送信しました)

【東京工業大学 大学院理工学研究科 地球惑星科学専攻】

1. 募集人員 地球惑星科学専攻専任教授 (定年 65 歳) 1 名

専門分野: 固体地球科学

- (1) 主に、固体地球物理学、地質学、岩石・鉱物学、地球化学などを専門とする方
 - (2) 本専攻の他分野に広く関心を持ち、他研究室との共同研究に積極的に取り組む方
 - (3) 大学院・学部の教育研究・運営を通して、次世代研究者育成に意欲的に取り組む方
2. 応募資格: 博士学位を有する方
3. 着任時期: 採用決定後、できるだけ早い時期
4. 提出書類

- (1) 履歴書 (市販のもので可)
 - (2) これまでの研究・教育の実績 (2,000 字程度)
 - (3) 今後の研究・教育の計画・抱負 (2,000 字程度)
 - (4) 研究業績リスト
 - A. 査読付き原著論文 (英文による国際雑誌掲載のもの)
 - B. 著書、その他特記すべき出版物
 - (5) 主な原著論文の別刷 (コピー可) 5 編以内
 - (6) 科学研究費補助金などの外部研究資金獲得実績リスト (過去 5 年分、代表者・分担者別)
 - (7) 応募者について参考意見をうかがえる方の氏名・所属・E-mail アドレス (国内外、各 2 名)
- 注 選考の過程で必要が生じた場合、追加して書類を提出していただくことがあります。

5. 応募締め切り: 2014 年 12 月 10 日 (水) 必着

6. 応募書類の送付先

〒152-8551 東京都目黒区大岡山 2-12-1 12-20

東京工業大学 大学院理工学研究科 地球惑星科学専

攻 秘書室 (209 号室) 気付 中本泰史 宛

Tel: 03-5734-2339

できるだけ「宅配便」にてご送付ください。

7. 問い合わせ先 中本泰史

e-mail: nakamoto@geo.titech.ac.jp, Tel: 03-5734-3535

8. 備考

- (1) 本専攻については次のホームページをご覧ください。 <http://www.geo.titech.ac.jp>
- (2) 東京工業大学のガイドラインに従い、応募書類にある個人情報には本選考のためだけに用い、他の目的のためには利用しません。選考終了後、応募書類は責任を持って処分します。
- (3) 東京工業大学では、多彩な人材を確保し大学力・組織力を高めるため、全ての研究分野において、外国人や女性の参画する均等な機会を確保します。
- (4) 本学のスタートアップ経費支援制度を利用できる可能性があります。

(上記のお知らせは火山学会メーリングリストに 10 月 15 日送信しました)

【東京大学地震研究所】

1. 職種: 特任研究員 (特定有期雇用教職員)
2. 研究テーマ: 以下の 8 テーマ (順不同) を対象とする。
 - (1) 地震活動の長期予測・統計的評価分野 (鶴岡 弘)
 - (2) 地殻・マントル岩石の可観測物性測定 (平賀岳彦)
 - (3) 高エネルギー素粒子地球物理学研究センターの 3 つの中心課題のいずれか (大久保修平)
 - (a) 原子核乾板でありながら時間変動を追える ミューオンカメラの開発
 - (b) ニュートリノを用いた地球内部構造研究への参画
 - (c) 素粒子検出エレクトロニクス技術を用いた、低雑音ミューオン望遠鏡の開発
 - (4) 非平面形状や摩擦の不均質性を考慮した地震サイクルモデル解析 (亀 伸樹)
 - (5) 鉦山地震における微小破壊、地震、岩盤観察情報の統合解析 (中谷正生)
 - (6) 日本列島 3 次元不均質地下構造の解明を目指した地震波動伝播モニタリングとシミュレーションの融合研究 (前田拓人)
 - (7) 史料に基づく低頻度大規模地震・火山現象の解明 (吉田真吾)
 - (8) IT 強震計に関する研究並びに産学連携共同研究の実施 (鷹野 澄)

3. 募集人員: 若干名

4. 応募資格：着任時に博士の学位を有する者。
応募前に各テーマの担当教員に連絡し、よく相談すること。
5. 採用予定時期：2015年4月1日以降の着任可能な日。
6. 任期・再任：任期は着任日から2016年3月31日まで。再任は1回のみ。
7. 待遇：「東京大学特定有期雇用教職員の就業に関する規程」および「東京大学年俸制給与の適用に関する規則」による。
8. 選考方法：原則として書類選考。ただし面接を行うこともある。
9. 提出書類：
・ 履歴書（市販用紙。東京大学統一様式 http://www.u-tokyo.ac.jp/per01/r01_j.html でも可）
・ 研究業績リスト（査読の有無に分類）
・ 主要論文の別刷り3編（学位論文は要旨のみ）、コピーも可。
・ 研究歴（A4用紙2枚以内）
・ 採用後の研究計画（A4用紙2枚以内）、研究テーマ（上記2）を明記のこと。
・ 応募者について意見を伺える方1~2名の氏名及び連絡先。
10. 応募締切：2014年11月28日（金） 必着
11. 提出書類送付先：
〒113-0032 東京都文京区弥生1-1-1
東京大学地震研究所庶務チーム（人事）
電話 03-5841-5668
注意：封筒表に「特任研究員応募書類在中」と朱書きの上、書留にて郵送のこと。
12. 問い合わせ先：
（公募全般について）東京大学地震研究所物質科学系研究部門 中井俊一
電話：03-5841-5698
電子メール：snakai@eri.u-tokyo.ac.jp
（各テーマについて）各担当教員（連絡先などの問合せは上記中井まで）
（上記のお知らせは火山学会メーリングリストに10月20日送信しました）

【独立行政法人日本原子力研究開発機構】

JAEA「特別研究生」募集

詳細については掲載先 URL をご覧ください。

テーマ No. 60：電子スピン共鳴法による断層の活動性評価に関する研究

テーマ No. 61：希ガス同位体を指標としたネオテクトニクスに関する研究

<http://www.jaea.go.jp/saiyou/internship/internship39.html>
書類提出期限は、平成27年1月9日（金）

（上記のお知らせは火山学会メーリングリストに10月31日送信しました）

【独立行政法人海洋研究開発機構 地球内部物質循環研究分野】

（締切平成26年11月28日）

- 職名・人数：研究員もしくは技術研究員 1名
- 所属：地球内部物質循環研究分野
- 募集内容：海洋研究開発機構では、第3期中期計画を実施するにあたり、対象の研究分野に従事する任期制職員（研究員もしくは技術研究員）を1名公募いたします。

【業務内容】 地殻・マントルの地球化学的及び地球物理学的データの取得と解析に基づき、その構造と物質循環、特にマントル大規模構造と元素・同位体循環に関する研究を推進します。

〈関連する専門分野〉

地質学、岩石学、鉱物学、地球化学、地球物理学、情報科学、数理科学

【募集職種】

研究員：機構業務への貢献のため、自立した研究者として、当該分野において世界をリードする研究を行い、主に主著論文を中心とした成果が期待されます。

技術研究員：機構業務への貢献のため、研究開発、技術開発、技術革新等を中心とした業務を行います。

4. 応募資格

研究員：当該研究に関連する分野の博士号取得者および優れた研究業績を有する者。

技術研究員：当該研究もしくは研究開発に関連する分野の博士号取得者および優れた研究業績を有する者

5. 応募書類

- 履歴書 1通（応募職種〈研究員〉もしくは〈技術研究員〉を記載）

※様式自由 連絡先 E-mail アドレス記載のこと。

※履歴書には照会先2名の連絡先を記載のこと。
照会先は、下記（7）の推薦者、当機構役職員および招聘者以外としてください。

- これまでにやってきた研究の要約 1通（A4 1枚程度）
- 当機構における研究計画 1通（A4 1枚程度）
- 研究業績リスト 1通

※論文リストは、レフェリー制のあるジャーナルとその他の研究、学術出版物に分けること。

(5) これまでに受けた競争的資金（科学研究費補助金、科学技術振興機構からの受託研究費など）のリスト 1 通

(6) 主要論文（2 編以内）の別刷またはコピー

(7) 推薦書 2 通

※ 2 名の推薦者より各 1 通を直接人事担当宛郵送のこと。封筒に「応募者名」を明記のこと。

※ 当機構役員及び招聘者は推薦者にはなれませんのでご注意ください。

6. 提出先

〒237-0061 神奈川県横須賀市夏島町 2-15

独立行政法人海洋研究開発機構

人事部 人事第 2 課 採用担当宛

（封筒の表に「平成 27 年度 地球内部物質循環研究分野 任期制職員 応募」と朱書きのこと）

（提出方法は郵送による。※ 郵送以外は受け付けません。）

7. 問い合わせ先

独立行政法人海洋研究開発機構

人事部 人事第 2 課 担当 庵原

TEL 046-867-9415 FAX 046-867-9095

E-mail : jinji2@jamstec.go.jp

※ E-mail による問い合わせの際は、件名に必ず「平成 27 年度地球内部物質循環研究分野任期制職員公募について」を入れてください。

8. 参考：

地球内部物質循環研究分野 ホームページ

http://www.jamstec.go.jp/d_seg/j/

本公募詳細

http://www.jamstec.go.jp/recruit/details/d_seg20141128.html

9. その他：

公募締切後、書類選考を行い、書類選考通過者について面接を行い、採用を決定します。面接は平成 26 年 12 月～平成 27 年 1 月頃に予定しています。

本公募では、女性の社会進出を推進するという日本政府の方針に準拠して、多数の女性研究者の積極的な応募を期待するとともに、男性候補者と女性候補者の業績および人物評価が同等であった場合は、女性を優先して採用します。

（上記のお知らせは火山学会メーリングリストに 11 月 19 日送信しました）

【東京大学地震研究所】

1. 公募人員：テニユアトラック助教（5 年任期）1 名

2. 所 属：採用後に決定

3. 研究分野：沈み込み帯のジオダイナミクス地殻・マントル現象シミュレーション分野

沈み込み現象は日本列島形成の主要なプロセスであると同時に、地震や火山噴火に伴うなどの災害の根本的要因である。地震研究所は、沈み込み帯の基本的な理解のために、地殻・マントルに関わる諸現象に対して、野外観測、室内実験、理論を用いた多面的研究を推進している。本研究分野は、最先端の計算理工学を応用した大規模数値計算モデルを構築する研究を通じて、沈み込み帯の地殻およびマントルにおいて観測されている様々な時間空間スケールの現象、特に地震学的の時間スケールから地質学的の時間スケールまでの現象を統合して理解するとともに、ことを目指している。本公募では、先端的数値シミュレーション研究を推進するとともに、その研究成果を観測研究にフィードバックすることによって、新しい学術分野を創成してゆく意欲のある研究者を募集する。また、当該助教は、本学教授、准教授と協力して大学院教育にも携わることが期待される。

4. 採用予定時期：決定次第平成 27 年 6 月 1 日以降、できるだけ早い時期。

5. 応募資格：博士の学位を有する者（外国での同等の学位を含む）。本公募は国際公募である。

6. 任期について：本公募は、テニユアトラック助教ポスト（5 年任期）への公募であり、採用後 3 年目に中間審査、採用後 5 年以内にテニユア審査を行い、任期のない准教授又は助教への採用可否が決定される。なお、本テニユアトラック助教ポストの研究環境・テニユア審査の詳細については、問い合わせ先に照会のこと。

7. 提出書類：

(1) 履歴書（市販用紙可）

(2) 業績リスト（査読の有無を区別すること。投稿中の論文も含む）。

(3) 主要論文の別刷り 3 編程度（コピー可）

(4) 研究業績の概要（2000 字程度）

(5) 今後の研究計画（2000 字程度）

(6) 応募者について参考意見をうかがえる方（2 名）の氏名と連絡先と e-mail アドレス

8. 公募締切：2015 年 1 月 30 日（金） 16：00 必着

9. 問い合わせ先：東京大学地震研究所地震予知研究センター 佐藤比呂志

TEL：(03)-5841-5737

E-mail：satow@eri.u-tokyo.ac.jp

10. 応募書類提出先：

〒113-0032 東京都文京区弥生 1-1-1 東京大学地震研究所事務部庶務チーム（人事）宛

封書を用い、表に「地殻・マントル現象シミュレーション沈み込み帯のジオダイナミクス分野助教応募書類」と朱書し、書留郵便で送付してください。

◎東京大学は2009年3月3日「男女共同参画加速のための宣言」を発表しました。

この宣言に基づき、教員・研究員の公募の際に、女性の応募を歓迎します。

（上記のお知らせは火山学会メーリングリストに11月19日送信しました）

【北海道大学 大学院理学研究院 自然史科学部門】

1. 職種・人員・専攻分野

自然史科学部門 地球惑星システム科学分野 講師
1名（任期：平成29年3月31日まで、再任不可）
専攻分野：宇宙化学

2. 応募資格：博士号を取得していること。

はやぶさ2プロジェクトの推進、宇宙分子進化の研究について独創的な研究を強力に推し進めていただける方。

本分野の教員と協力して教育研究をしていただける方。全学教育（初年次教育）および地球惑星システム科学関連の学部・大学院教育を担当していただける方。

3. 着任予定時期：2015年4月1日以降のできるだけ早い時期

4. 応募書類

イ）履歴書（内外の学会活動、受賞歴、参加しているプロジェクト研究歴、各種研究費受領歴なども記載すること。また、平成25年4月1日以降、北海道大学に在職経験（非常勤講師、TA、RA、短期支援員等すべての職種を含む。）のある者は、当該職歴を漏れなく記載すること。）

ロ）これまでの研究経過（2,000字程度）

ハ）研究業績目録（和文のものは和文で表記すること）

- A. 査読のある原著論文
- B. 査読のない論文、総説など
- C. 著書
- D. 解説、報告などその他の出版物で特に参考になるもの

ニ）主な原著論文の別刷5篇以内（複写可）

ホ）今後の教育・研究の計画・抱負（2,000字程度）

ヘ）応募者について照会が可能な方2名の氏名と連絡先（電話番号、電子メールアドレス）

5. 応募締め切り：2014年12月17日（水）必着

封筒の表に「教員公募関係」と朱書し、簡易書留または宅配便にて送付すること。

教員公募関係書類は個人情報保護法に基づいて厳正に管理し、審査終了後には適切に処分します。

6. 備考 選考の過程で面接等を行うことがあります。

※面接に係る旅費・滞在費は応募者負担となりますのでご了承ください。

北海道大学では男女共同参画社会の実現を目指して、様々な取り組みを行っています。教員の公募に関しても、その精神に則り教員の選考を行います。詳しくは以下をご覧ください。

（<http://www.hokudai.ac.jp/jimuk/soumubu/jinjika/kyoudosankaku/>）

7. 書類の送付先及び問い合わせ先：

〒060-0810 札幌市北区北10条西8丁目

北海道大学 大学院理学研究院 自然史科学部門 地球惑星システム科学分野

中川光弘

電話：011-706-3520 (dial in) FAX：011-746-0394

電子メール：mnakagawa@mail.sci.hokudai.ac.jp

（上記のお知らせは火山学会メーリングリストに11月20日送信しました）

○その他の公募

【海洋研究開発機構】

大型研究航海 計画作成ワークショップ 研究課題の募集

(1) 研究課題 募集期間：

平成26年8月22日（金）～平成26年9月19日（金）

(2) 大型研究航海 計画作成ワークショップ

開催日時：平成26年11月6日（木）～7日（金）

開催場所：横浜研究所 三好記念講堂他

使用言語：英語

詳細については下記サイトをご覧ください。

http://www.jamstec.go.jp/maritec/e/large-scale_cruise/

【問い合わせ先】

独立行政法人海洋研究開発機構

運航管理部 計画グループ

e-mail：riyo-kobo@jamstec.go.jp

（上記のお知らせは火山学会メーリングリストに8月25日送信しました）

【東京大学地震研究所】

1. 公募事項（公募要領を参照）

- (1) 共同研究
- (2) 研究集会

- (3) 施設・実験装置・観測機器等の利用
 (4) データ・資料等の利用
- 申請資格：国立大学法人、公、私立大学及び国、公立研究機関の教員・研究者又はこれに準じる者。
 - 申請方法：共同利用 HP (<http://www.eri.u-tokyo.ac.jp/sharing/index.html>) にある「所定の様式」に必要な事項を記載のうえ申請してください。なお、一般共同研究、研究集会については、研究代表者が申請してください。
 - 研究期間：研究期間は、平成 27 年 4 月から平成 28 年 3 月までとする。
 - 審査の方針：本研究所共同利用委員会では提出された申請書を審査し採否を決定します。研究計画の内容が各種共同利用の趣旨に沿っていることが重要です。また、本研究所との研究活動の関連性や施設・装置・データとの関連性も審査の対象となります。なお、特定共同研究 (A) (B) (C) に関しては、今回提出いただいた参加申請書を地震研究所が取りまとめ、研究代表者に送ります。それを受けて研究代表者によりとりまとめられた「計画調査」(11 月中旬締め切り) が審査対象となります。
 - 申請期限：平成 26 年 10 月 31 日 (金) 【厳守】
 - 承諾書の提出：
 - 共同研究へ申請される際には、上記締め切り後 2 週間以内に所属機関長等の承諾書 (様式 C-2) を下記住所まで郵送願います。(異動等があった場合は、新しい所属機関長の承諾書を速やかに再提出してください。)
 - 研究集会、(3) 施設・実験装置・観測機器等の利用、(4) データ・資料等への申請には承諾書は不要です。
- 〒113-0032 東京都文京区弥生 1-1-1 東京大学地震研究所研究支援チーム (共同利用担当)
- 採否の決定：共同利用の採否は、本研究所共同利用委員会が決定します。採否の決定は、平成 27 年 3 月下旬までに行われ、審査結果を課題代表者及び研究代表者あてに通知します。
 - 所要経費：共同利用に必要な経費及び旅費は、予算の範囲内において地震研究所が支出します。
 - 謝辞等の記載：本研究所の共同利用で行われた研究に関する論文を発表する場合は、謝辞に地震研究所共同利用を利用した旨の文章を入れ、その別刷を提出していただきます。
 - 宿泊施設：本研究所には宿泊施設がありませんので、各自用意してください。
 - 注意事項：

- 施設等の利用にあたっては、本研究所の規程、その他関係法令を遵守するとともに、管理・安全のために発する所長の指示に従っていただきます。
- 予算の執行、研究の実施、設備の利用については、所内担当教員と十分に連絡を取り、かつ、関係する教員の指示に従ってください。
- 本学以外の共同利用者が研究を遂行する際に受けた損失、損害に関しては、原則として各所属機関で対応するものとし、本学は一切の責任を負いません。また学生が共同研究に参画される場合は、(財)日本国際教員支援協会の損害保険「学生教育研究災害障害保険 (学災教)」等に加入してください。
- 本共同利用によって知的財産を創出した場合は、出願等を行う前に所内担当教員及び研究分担者にご連絡ください。併せて、所属機関の知財担当部署への連絡もお願いいたします。権利の持ち分、出願手続き等については協議の上、決定いたします。
- この他、公募に関するお問い合わせは研究支援チーム (共同利用担当) へお願いします。

【問い合わせ先】 〒113-0032 東京都文京区弥生 1-1-1

東京大学地震研究所研究支援チーム (共同利用担当)

電話：03-5841-5710, 1769 FAX：03-5689-4467

E-mail：k-kyodoriyo@eri.u-tokyo.ac.jp

【共同利用ホームページ URL】

<http://www.eri.u-tokyo.ac.jp/sharing/index.html>

【WEB 申請はこちら】

<http://www.eri.u-tokyo.ac.jp/sharing/info.html>

(上記のお知らせは火山学会メーリングリストに 9 月 3 日送信しました)

【東京大学地震研究所】

平成 26 年度地震火山災害予防賞公募

- 表彰対象者 (地震研究所 地震火山災害予防賞規則 第 3 条)

次の各号のいずれかに該当する者等を地震火山災害予防賞の表彰対象とする。受賞者の所属、身分は問わない。ただし、過去に震災予防協会賞または地震火山災害予防賞を受けたものは選考対象から除く。

- 野外観測・室内実験等における研究支援や関連する機器・処理システム等の技術開発等によって、地震・火山研究の進展や、地震・火山活動に起因する災害の予防軽減に功績のあったと認められる者。
- 災害記録や古文書の発掘・整理によって、地震・

火山研究の進展や、地震・火山活動に起因する災害の予防軽減に功績のあったと認められる者。

- 三 その他の技術的側面で、自然災害の予防軽減及び地震工学の発展に功績のあったと認められる者。

2. 応募方法

候補者の氏名・所属・推薦理由（自薦・他薦を問わない）を A4 用紙（別紙様式）にまとめ、以下へ提出してください。提出書類は返却しません。また応募書類に含まれる個人情報を選考及び採用以外の目的には使用しません。

3. 応募締切

平成 26 年 11 月 28 日（金）午後 5 時

4. 応募書類提出先

〒113-0032 東京都文京区弥生 1-1-1
東京大学地震研究所事務部庶務チーム宛
封書を用い、表に「地震火山災害予防賞応募書類」と朱書してください。

5. 表彰等

- I. 地震火山災害予防賞の表彰は、例年 1 月に実施する地震研究所職員研修会の際に行います。
II. 受賞者には、研修会の中で特別講演（15 分程度）をお願いします。

6. 問い合わせ先

東京大学地震研究所観測開発基盤センター
小原一成
TEL：(03)5841-8286 E-mail：obaraeri.u-tokyo.ac.jp

7. 地震火山災害予防賞及び震災予防協会賞受賞者一覧

URL：http://www.eri.u-tokyo.ac.jp/jishinkazanyobosyo/
その他詳細：
http://www.eri.u-tokyo.ac.jp/jishinkazanyobosyo/
jishinkazansaiyaiyoboushoukoubo2014.pdf

（上記のお知らせは火山学会メーリングリストに 9 月 30 日送信しました）

【山田科学振興財団 研究援助のご案内（締切：2015 年 1 月 30 日）】

援助対象 自然科学の基礎的分野に対して重要かつ独創的な研究に従事する研究者

助成金の内容 1 件 100～500 万円 総額 3000 万円
（15 件程度、原則 2 年）

援助対象期間 2015 年 9 月～2017 年 3 月に行われる研究
締切日 2015 年 1 月 30 日

応募方法 援助内容および応募の詳細は山田科学振興財団のホームページ <http://www.yamadazaidan.jp/enjoyo2.html> を参照してください。

応募には所属学会の推薦が必須です。上記締切日は火山学会推薦の締切日です。

応募希望者は、山田科学振興財団のホームページから推薦書用紙をダウンロードし、学会推薦欄を除く各欄に必要な事項を記載してください。必要書類（推薦書と添付書類）を紙媒体と電子媒体（CD または USB メモリ）の両者で作成してください。

紙媒体の書類を火山学会宛に、電子媒体の書類を山田科学振興財団宛てにお送り下さい。

火山学会では上位 2 件を推薦します。

書類送付先

紙媒体

特定非営利活動法人 日本火山学会

〒113-0033 東京都文京区本郷 6-2-9

モンテベルデ第 2 東大前 406 号

電子媒体（CD または USB メモリ）

公益財団法人 山田科学振興財団

〒544-8666 大阪市生野区巽西 1 丁目 8 番 1 号

電話 大阪 (06) 6758-3745（代表）

（上記のお知らせは火山学会メーリングリストに 10 月 17 日送信しました）

【平成 27 年度京都大学防災研究所共同研究の募集】

1. 公募事項

- A. 防災研究所外の国内外の研究者を研究代表者とする共同研究
- 1) 一般共同研究
 - 2) 萌芽の共同研究（注 1）
 - 3) 一般研究集会
 - 4) 長期滞在型共同研究（注 2）
 - 5) 短期滞在型共同研究（注 2）
- （注 1）大学院生（博士後期課程）および所内研究者が研究代表者となることも可
（注 2）大学院生（博士後期課程）が研究代表者となることも可
- B. 自然災害研究協議会が企画提案する共同研究
- 6) 重点推進型共同研究
- D. 所外利用者による施設・設備利用の共同研究
- 9) 施設・設備利用型共同研究
- E. 地域防災実践型共同研究（26 年度に 2 年間で公募したので 27 年度は公募しない）
- 10) 一般共同研究
 - 11) 特定共同研究

なお、これらのほかに、拠点研究（C. 7）・8）がありますが、これは防災研究所の所内教員が研究代表者となるもので、所内の公募に限らせていただき

ます。

2. 申請資格：

国立大学法人、公・私立大学、国公立研究機関及び独立行政法人機関の教員・研究者又はこれに準ずる国内外の研究者で、京都大学防災研究所の教員以外のもの。ただし、萌芽的共同研究、長期・短期滞在型共同研究は大学院生（博士後期課程）が研究代表者となることもできます。

3. 申請方法：所定の様式による申請書に必要事項を記載の上、各1部を提出ください。申請書は電子媒体の添付ファイルで送信ください。

4. 研究期間：別紙共同研究公募要領のとおり

5. 申請期限：平成27年1月5日（月）

施設・設備利用型共同研究は随時受け入れ

6. 提出先：〒611-0011 宇治市五ヶ庄

京都大学宇治地区事務部研究協力課共同利用担当

(E-mail: kyodo@dpri.kyoto-u.ac.jp)

Tel: 0774-38-3350 Fax: 0774-38-3369)

※提出後3日以内に「受領確認」の返信がない場合はお問い合わせください。

7. 選考及び通知：申請課題の採否は、公正な審査を行い、防災研究所共同利用・共同研究拠点委員会にて決定します。採択決定通知は申請者あて3月下旬（予定）に行います。経費通知は6月頃の予定です。

8. その他：本共同研究に関する事項・申請書の様式は、防災研究所ホームページからダウンロードしてください。

(http://www.dpri.kyoto-u.ac.jp/web_j/index_topics.html)

日本語版募集ページ：http://www.dpri.kyoto-u.ac.jp/web_j/contents/leftmenu_kyodo.html

(上記のお知らせは火山学会メーリングリストに11月20日送信しました)

○シンポジウム等の開催案内

【アジア太平洋地域地震火山ハザード情報整備に関する研究集会】

日時：9月10日（水）18：30-19：30（最長20：00まで）

場所：インドネシア ジョグジャカルタ Gadjah Mada 大学 Grha Sabha Permana 1階 R3 ルーム

内容：G-EVER アジア太平洋地域地震火山災害図プロジェクトでは、(1) 東アジア地域地震火山災害図（印刷物）の作成、(2) アジア太平洋地域地震火山ハザード情報システム（オンラインシステム）の構築を進めている。東アジア地域火山災害図は、2016年にユネスコ世界地質図委員会（CGMW）のシリーズとして出版予定の、750万分の1スケール

の災害情報図である。一方、アジア太平洋地域地震火山ハザード情報システムは、アジア太平洋地域の地震、津波、火山噴火に関する災害履歴、災害分布、ハザード関連情報の総合閲覧検索システムであり、地震、津波、火山噴火関連の詳細情報データベースとしても機能する予定である。過去の地震や火山噴火の規模、災害の規模ごとに地図上に表示する機能に加えて、地震、津波災害の分布、降下テフラ、火砕流堆積物等の火山噴出物の分布等を表示する機能など、災害履歴や災害予測情報の比較検討ができる機能を開発中である。2014年7月より試験公開を開始している。現時点では、1,000名以上の犠牲者を出した地震の分布や、M6以上の過去100年間、1年間、1ヶ月、1週間、今日の地震の分布、主要大地震の震源域を表示することができる。また、火山については、各国の地域毎の検索表示機能や主要火山データベースへのリンク機能がある。一方、インドネシア CVGHM と進めている共同プロジェクトでは、インドネシアの活火山の火山噴火写真、衛星画像、地質図、ハザードマップ、噴火履歴、災害履歴、引用文献をオンライン上で表示するシステムのプロトタイプを構築中である。本研究集会では、アジア太平洋地域地震火山ハザード情報システムを始め、今後のアジア太平洋地域のハザード情報整備について広く討論を行う。

アジア太平洋地域地震火山ハザード情報システム（試験公開）

<http://g-ever.org/updates/?p=116>

http://citiesonvolcanoes8.com/?page_id=2463 の Intra Conference Meeting (6.I.D)

来週のCOV8に参加を予定されている方で、ご関心のある方は、ぜひご参加頂ければ幸いです。

参加希望者は、9月8日までに、宝田 (s-takarada@aist.go.jp) へメールでご連絡頂けると幸いです。

(上記のお知らせは火山学会メーリングリストに9月2日送信しました)

【アウトライズ掘削国内ワークショップ開催】

海洋掘削科学研究開発センターおよび地震津波海域観測研究開発センターでは下記の通りワークショップを開催します。皆様のご参加をお待ちしております。

日時：平成26年9月4日（木）～5日（金）

場所：海洋研究開発機構 東京事務所 共用会議室 A・B

共催：日本地球掘削科学コンソーシアム (J-DESC)

目的：日本列島の島弧-海溝系で起こる地震・火山活動を

解明するために北西太平洋に広がるアウトターライズにて掘削を行いたいと考えております。平成27年4月の掘削提案を目指し、アウトターライズ掘削に期待する科学、掘削サイトの検討など多くの研究者の知見を集めて議論していきます。

プログラム：詳細は添付ファイルの通り（一部調整中）
ご参加いただける方は、大体の人数を把握したいので、下記日付の横に○×をつけて、以下までご連絡ください。

※当日飛び入りでの参加も大歓迎です。

【連絡先】

アウトターライズ掘削国内ワークショップ事務局
outerrise@jamstec.go.jp

【参加有無】

9/4（木）

9/5（金）

懇親会（9/4夜）

旅費支援：若干名ですが、J-DESCよりポストドクまたは大学院生への旅費支援があります。詳しくは下記ページをご覧ください。

（メ切9月1日正午）

http://www.j-desc.org/modules/tinyd0/rewrite/events/140904_outer_rise_WS.html

問合せ先：海洋掘削科学研究開発センター 阿部なつ江
046-867-9329 outerrise@jamstec.go.jp

（上記のお知らせは火山学会メーリングリストに9月2日送信しました）

【高校生のための先進的科学技术体験合宿プログラム
「ウインター・サイエンスキャンプ '14-'15」参加者募集】
開催日：2014年12月21日～2015年1月7日の期間中の2泊3日～6泊7日

対象：高等学校、中等教育学校後期課程（4～6学年）
または高等専門学校（1～3学年）

会場：大学、公的研究機関等 9機関

定員：会場ごとに12～24名（計168名）

参加費：2000円（食費の一部に充当。自宅と会場間の往復交通費は自己負担）

応募締切：2014年10月24日（金）必着

主催：独立行政法人 科学技術振興機構、会場となる実施機関（9機関）

応募方法：Webより募集要項・参加申込書入手し、必要事項を記入の上事務局宛送付

<http://www.jst.go.jp/cpse/sciencecamp/camp/>

応募・問い合わせ先：サイエンスキャンプ本部事務局
（公財）日本科学技術振興財団 人財育成部内

TEL：03-3212-2454 FAX：03-3212-0014

E-mail：camp-boshu26@jsf.or.jp

（上記のお知らせは火山学会メーリングリストに10月2日送信しました）

【JAEA 東濃地科学センター H26「情報・意見交換会」開催のご案内】

「平成26年度 東濃地科学センター 地層科学研究 情報・意見交換会」

日時：平成26年11月11日（火）13：20～17：00

場所：瑞浪市地域交流センター「ときわ」（岐阜県瑞浪市）

※定員：約150名

「瑞浪超深地層研究所 深度300m 水平坑道見学会」

日時：平成26年11月12日（水）9：15～12：00

場所：瑞浪超深地層研究所

※定員：40名

※いずれも、申込者が多数の場合は、先着順とさせていただきます。ご了承下さい。

※入場無料（事前の申し込みが必要です。）

※締切 10月24日までに申し込み下さい。

申込先

独立行政法人 日本原子力研究開発機構

バックエンド研究開発部門 東濃地科学センター

地層科学研究部

結晶質岩工学技術開発グループ

E-メールアドレス：tono-koukankai2014@jaea.go.jp

ホームページ：http://www.jaea.go.jp/04/tono/topics/topics1410_1/1410_1.html

（上記のお知らせは火山学会メーリングリストに10月7日送信しました）

【Oceanic Plate Drilling Workshop：Ridge to Subduction】

日時：12月14日（日曜日）

12時半受付開始 1時開始 5時半終了

参加希望者は outerrise@jamstec.go.jp に連絡をください。

質問などがありましたら、上記メールか、森下（金沢大）宛にメールをください。

moripta@staff.kanazawa-u.ac.jp

もしくは tomo50@icloud.com

仮話題と講演者（情報はHP上で更新していきます。）

1. Introduction：Hard Rock drillings, results of Large-scale workshop and information about the current Moho to Mantle (M2M) proposal byTomoaki MORISHITA
2. Oman Drilling by Peter KELEMEN
3. Technical Developments by CDEX
4. IBM by Yoshi TAMURA

5. Cocos outer rise by Jason MORGAN
6. J-Track (Tracking Tsunamigenic Slips in the Japan Trench) by Shunichi KODAIRA
7. Western Pacific outer rise by Gou FUJIE, Yoichiro OBANA
8. Workshop report on western Pacific outer rise by Natsue ABE
9. Discussion

場所

HOTEL NIKKO SAN FRANCISCO

<http://www.hotelnikkosf.com/>

住所

222 Mason Street, San Francisco, California 94102, U.S.A.

[Map]

<http://www.hotelnikkosf.com/map.asp>

The Hotel Nikko is accessible by BART and MUNI public transit lines, and also in walking distance of many hotels around

コンピューター

Benoit Ildefonse (Montpellier University) Peter B. Kelemen (LDEO) Damon A.H. Teagle (University of Southampton) Natsue Abe (JAMSTEC) Tomoaki Morishita (Kanazawa University)

文責 森下知見 金沢大学

(上記のお知らせは火山学会メーリングリストに10月31日送信しました)

【巨大地震と火山活動第1回研究会】

場所：地震研究所1号館（新館）2階セミナー室（203号室）

URL：<http://www.eri.u-tokyo.ac.jp/people/kurikuri/WhatsNew2014/WhatsNew/MeetingNo1.html>

研究会の趣旨

2011年の東北の巨大地震以降、日本列島の応力場は大きく変化したと考えられています。この変化が火山の活動にどのような影響を及ぼすのか、それが今後どのような形で現れてくるのか、現在の地球科学の知識を総合して考えていきたいというのが出発点です。このためには過去の事例の検討：17世紀北海道の火山の活性化例や貞観地震後の火山噴火活動、や観測量に基づいた現在の応力場、その変動の正しい把握、想定しうるパラメータに基づいた変形場や火山深部プロセスのモデリングなどの異なった研究分野の共同作業が必要になります。このような意図の基に地震研究所特定共同利用研究：巨大地震が励起する火山活動の活性化過程の研究 を立ち上げました。本研究会では特に地殻中深部の変形が火山噴火の

準備過程にどのような影響を与えるのかという点に焦点を絞り、今後数十年という比較的長いタイムスケールでの火山活動を議論したいと思います。今回は特に主発点として現状の理解の共有化をめざして幾つかの分野での現状を報告頂き問題点・課題を抽出するための自由な討議を進めたいと思います。

プログラム

第1日

11月15日土曜

12:00 会場（入り口の施錠は会議時間帯は解除します）

12:30-13:00

高橋栄一（東工大）「巨大地震に伴ってどのような過程で火山活動が活性化されるか」

13:00-14:00

中川光弘（北大）「南西北海道の3火山は3.11地震に連動して噴火するか」

14:00-14:30

高田 亮（産総研）「応力変化が火山噴火に及ぼす影響：力学的モデルと海外の噴火事例」

休憩

15:00-15:30

才田悠人・○中島淳一（東北大）地震波で診る火山の深部構造

15:30-16:00

三浦 哲（東北大）「東北地方太平洋沖地震後の火山フロント沿いの余効ひずみ異常域」

16:00-16:30

大久保修平（東大）「2011年東北地震後の体積歪イメージャーとしての東北・北海道の重力変化」

16:30-17:00

芝崎文一郎（建築研）「東北日本弧の3次元不均質レオロジー構造モデルと東北沖地震後の粘弾性変形過程」

17:00-17:30

小菅正裕（弘前大）地震波形の時間変化：秋田県森山山で観測された誘発地震の後続波

17:30-18:30（延長の予定）

総合討論—1 「第1日のまとめと問題点整理」 栗田 敬

話題提供とコメント 高田陽一郎（京大防災研）、他

第2日

場所：地震研究所1号館（新館）2階セミナー室（203号室）

11月16日日曜

9:00 開場（入り口の施錠は会議時間帯は解除します）

9：30-10：00

伴 雅雄 (山形大)「鳥海山, 貞観地震以降のマグマ供給系」

10：00-10：30

小山真人 (静大)「火山で生じる異常現象と近隣地域で起きる大地震の関連性」

10：30-11：00

山本 希 (東北大)「3.11 地震以後の東北地方における火山活動」

休憩

11：15-11：45

深畑幸俊 (防災研)「沈み込み帯における山脈と火山列の一致について」

11：45-12：45 (特別枠)

高橋正樹 (日大)「巨大地震や地殻歪変化は本当に噴火の引き金となるのか? マグマ溜りシステムの噴火臨界状態とは何だろうか?」

昼食休憩

13：30-15：00

総合討論 高橋栄一・栗田 敬

- ・作業仮説モデルの構築
- ・観測を強化すべき火山
- ・観測すべき物理量
- ・今後の活動方針について

研究会世話人・連絡先

高橋栄一 (東工大), 栗田 敬 (東京大地震研)

Kei Kurita

Earthquake Research Institute, University of Tokyo

kurikuri@eri.u-tokyo.ac.jp

(上記のお知らせは火山学会メーリングリストに 11 月 13 日送信しました)

【第 23 回地質調査総合センターシンポジウム】

日本列島の長期的地質変動の予測に向けた取り組みと今後の課題

—数十万年の過去を解明し, 将来を予測する技術・知見・モデル—

日 時：2015 年 1 月 16 日 (金曜日)

13 時 00 分～18 時 10 分

会 場：東京秋葉原ダイビル 2F 秋葉原コンベンションホール (東京都千代田区外神田 1-18-13)

主 催：独立行政法人 産業技術総合研究所 地質調査総合センター

参加登録：https://www.gsj.jp/sympo23/ (参加無料)

* CPD 単位認定 (CPD 希望の方も事前参加登録をお願いします。)

お問合わせ先：第 23 回地質調査総合センターシンポジウム事務局 (地質標本館内)

Tel：029-861-3687 E-mail：gsjsympo23-ml@aist.go.jp

開催趣旨

数十万年スケールでの地質変動の将来活動評価・予測は, 原子力発電所の安全審査 (活断層評価) や放射性廃棄物の安全規制 (処分場の長期安定性評価) 等において, 社会的にも何らかの対応が必要な課題の一つとなっている。また, 2011 年東北地方太平洋沖地震では, 内陸での誘発地震の発生や三陸地域に代表される太平洋沿岸部の沈降など, 東北地域の地殻変動について大きな関心が寄せられている。

地震・断層, 火山・マグマ活動や, 深部流体・熱水活動等は互いに影響・関連しており, 日本列島の長期的な地質構造発達史の観点での検討・解明を進める必要がある。本シンポジウムでは, 各種の地質変動に対する, 過去から現在までの履歴の解明と, それに基づく傾向・特徴の抽出, また, 将来予測につながる地質学的モデル構築に対する取り組みや代表的な成果を報告すると共に, 今後の課題について議論したい。

講演予定:

1. 後期新生代, 東北日本弧の火成活動史: 吉田武義 (東北大学名誉教授)
2. マグマ含水量分布からみたマグマ活動位置の評価: 宮城磯治 (活断層・火山研究部門)
3. スラブ起源深部流体—その分布, 成因と地震活動との関連について—: 風早康平・高橋正明・尾山洋一・安原正也 (活断層・火山研究部門)・長谷川昭 (東北大学名誉教授)
4. プレート運動からみた日本列島の地殻変動: 高橋雅紀 (地質情報研究部門)
5. 日本列島の応力場解析と長期の断層活動性評価: 大坪 誠 (活断層・火山研究部門)
6. 超巨大地震と日本列島の造山運動: 池田安隆 (東京大学大学院理学系研究科)
 - ポスター発表
 - 1. 第四紀火山データベースの活用事例—西南日本に分布する火山の時空分布—: 西来邦章・伊藤順一 (活断層・火山研究部門)
 - 2. Southwest Japan intra-plate monogenic volcanism: a case study of San-in Pliocene volcanic centers. (西南日本のプレート内単成火山活動: 山陰地域の鮮新世火山活動中心の例): Ngyuen Hoang・伊藤順一・宮城磯治・西来邦章 (活断層・火

山研究部門)

3. 日本列島におけるマントル起源ヘリウムの分布とその原因: 堀口桂香・風早康平・塚本 齊・森川徳敏・大和田道子・仲間純子 (活断層・火山研究部門)
4. 瀬戸内地域における塩水の年代分布と海面変化の影響: 戸崎裕貴・森川徳敏・風早康平・佐藤 努・高橋浩・安原正也・大和田道子・高橋正明・稲村明彦 (活断層・火山研究部門)
5. 応力からみる断層活動性の時間変化: 宮川歩夢 (地質情報研究部門)・大坪 誠 (活断層・火山研究部門)
6. 断層ガウジを用いた断層活動性評価手法—研究の動機, 試案と適用事例—: 宮下由香里・間中光雄・伊藤順一 (活断層・火山研究部門)
7. 断層ガウジを用いた断層活動性評価手法—化学分析値の活動性指標としての活用—: 間中光雄・宮下由香里・伊藤順一 (活断層・火山研究部門)
8. 宇宙線生成核種を用いた侵食速度の推定: 城谷和代 (活断層・火山研究部門)
9. 海成段丘堆積物の堆積相とルミネッセンス年代による隆起速度評価: 田村 亨・伊藤一充 (地質情報研究部門)

(上記のお知らせは火山学会メーリングリストに11月20日送信しました)

○ IAVCEI 関係

【IAVCEI の IUGG 離脱に関する投票】

日本火山学会員で IAVCEI 会員の皆様

IAVCEI (国際火山学・地球内部化学協会) の執行委員会 (EC) では、IAVCEI が親組織 IUGG (国際測地学・地球物理学連合) から脱退することに関して賛成か反対かの会員投票を行うことを先頃決めました。日本火山学会で IAVCEI 会員の皆様には慎重に投票に望まれるようお願いいたします。詳細はすでに IAVCEI News で流されています。

http://www.iavcei.org/documents/newsletters/2014/2014%20_IAVCEI_News_2.pdf

国際科学会議 (ICSU: 非政府組織でメンバー国からの分担金と国連からの補助金などが財源) の傘下に IUGG や IUGS (国際地質科学連合) など約 30 の国際学術連合があります。IUGG は 80 数カ国がメンバーで、それぞれの国の GNI (昔の GDP) と 4 年毎の IUGG 総会国別参加者数に基づいて計算された分担金を支払っています。日本日本学術会議が IUGG に対して年間約 300 万円を拠出しています。IUGG 傘下に IAVCEI を含む 8 つの Association (協会) があります。

(背景) IAVCEI-EC メンバーに、IUGG 加盟国でない国の

会員が立候補することは、IUGG の規約・内規でできません。また、同規則では、会費を納める会員制も認められていません。規則によると IUGG やその傘下の協会の運営について投票権や役員の被選挙権を持つのは国の代表者だけですが、IAVCEI は個人会員制をとり選挙権を認めています。これまで IAVCEI が会員投票で一旦選んだ南米の役員を IUGG が認めないということがありました。これらの問題について IAVCEI 執行委員達は数十年前から強い不満を持っていました。Ray Cas 現 IAVCEI 会長は参加希望をする個人が、国籍や国の財政状態によらず、だれでも学術団体の運営に自由に参加できる権利があるなどをうたった「学術団体に参加する自由の原則」を IUGG 執行部に提出しました。上に加えて、IUGG 総会時に開かれる IAVCEI 総会 (およびシンポジウム) が非火山国で開かれたり、AGU や EGU に比べて魅力的ではないこと。その結果として、IUGG/IAVCEI 総会への IAVCEI 関係者の参加が 300 人前後であり、鹿児島等で開催された学術総会や COV に比べて参加者が極めて少ない状態であることなどが課題として上げられています。

(IUGG 傘下にいるメリット)

IUGG 総会へは、日本学術会議のように各メンバー国のアカデミーの代表が出席し、その運営や経営を議論しています。従って、ICSU だけでなく、IUGG も本来は協会の垣根を越え、より国際的な立場で、測地学や地球物理学に関する学際的な問題や課題を提起・解明する機能を持っています。気候変動や災害などの国際的に対応すべき課題について情報交換を行い、各国の政策を巻き込んだ解決も場合によっては可能のはずです。ただ、国によってはどうやって代表が決まっているか不透明なところもあります。また、4年に一度開催される IUGG 総会への、各協会関係の参加者数に比例して、毎年還付金が 8 つの協会に配分されます。これまでは IAVCEI の運営資金の半分以下程度を占めています。

(IUGG 傘下のデメリット)

背景のところで述べたことに加えて、IUGG は百年の歴史がある一方でその体質は旧態然としており、IAVCEI が主張する研究者の平等を真摯にとりあってくれず、IUGG 傘下に IAVCEI がいることの利点がない (これまでは一切なかった) と今の執行部の大多数は考えています。詳細は News をご覧下さい。

現在、IUGG は IAVCEI からの指摘を受け、個人会員制 (有料/無料) を検討し始めており、各協会と各国の IUGG 対応組織に個人会員制導入の是非について意見照会をしました。8 協会からは賛否半々でした。

ただし、有料会員制導入については、これを実施すると、どの国もこれまでの分担金を払わなくなって運営が立ち行かなくなるといって否定的な意見があったようです。

今週開催した、日本学術会議地球惑星委員会 IUGG 分科会では会員制導入に否定的な意見が多い状態で、この意見分布に基づいて日本の回答を IUGG にすることになります。この下部組織である IAVCEI 小委員会（日本火山学会国際委員会と同じ）でも意見交換しましたが、賛否のいずれでも一致を見ていません。もちろん、IAVCEI が IUGG を脱退すれば学術会議が IAVCEI の窓口ではなくなるので、この小委員会は自然消滅します。

IAVCEI は会員の皆さんの投票結果を元に次の IAVCEI 総会（第 26 回 IUGG 総会プラハ大会 2015/6/22-7/2）で次の行動を起こすこととなります。ただし IAVCEI が IUGG を離脱した後の名称や財政問題についてはすでに News に書いてありますが、どのような運営体制になるかの具体的議論はまだなされていません。

このように IAVCEI が急速に動いている背景を少しでも理解いただいて、IAVCEI 会員の皆様には慎重に投票に望んでもらうこととなります。日本の IAVCEI 会員は全体に占める割合が高いので、日本の会員の皆さんの投票結果が IAVCEI の将来を大きく左右することとなります。さらに詳細を知りたい方は News をお読み下さい。また、個人的な意見や問い合わせがありましたら中田 (nakada (at) eri.u-tokyo.ac) までお寄せ下さい。

（日本学術会議地球惑星科学委員会 IAVCEI 小委員会委員長 中田節也 2014.11.15）

（上記のお知らせは火山学会メーリングリストに 11 月 14 日送信しました）

○連合大会関係

【連合大会・セッション提案】

火山学会員の皆様

2015 年度地球惑星科学連合大会のセッション締め切りが迫っております。

セッション提案締切 10 月 23 日（木）17：00

皆様の積極的なセッション提案をお待ちしております。

※コンビナーガイドラインが改訂されています。

ご提案前に一度ご確認をお願いいたします。

<http://www.jpogu.org/meeting/guidelines.html>

※国際セッションでの開催の可能性もご検討ください。

国際セッションには、プログラム編成時に招待講演者数等一定の優遇措置があります。

※セッション提案時には以下の情報を火山学会事務局 (kazan-gakkai@kazan.or.jp) までご連絡ください。

- 1) セッション名、2) 提案者（代表コンビナー）、3) 共同コンビナー予定者、4) セッション内容の概要、5) 他の提案母体学協会（予定がある場合）

青木陽介

連合大会プログラム委員（火山学会）

（上記のお知らせは火山学会メーリングリストに 10 月 10 日送信しました）

○秋季大会関係

【火山学会秋季大会投稿締切は 8 月 27 日午後 4 時】

火山学会秋季大会(11 月 2 日～11 月 4 日:学術講演会)の講演申込み締め切りは 8 月 27 日(午後 4 時)を予定しております。

発表予定の皆様は申込みをよろしくお願いいたします。投稿先 URL :

<http://www.kazan.or.jp/doc/kazan2014/application.html>

予稿原稿 (PDF ファイル) 送信先

kazan-taikai@ymail.plala.or.jp

すでに投稿されている講演要旨の差し替えも 8 月 27 日まで受け付けます。

以上よろしくお願いいたします。

（上記のお知らせは火山学会メーリングリストに 8 月 21 日送信しました）

【2014 年秋季大会現地討論会のご案内（申込締切：9 月 24 日）】

日本火山学会 2014 年秋季大会では、現地討論会への参加者を募集しています。

現在のところ申込者が少なく、催行が決定しているのは「五島福江火山」のみになっています。

申込締切は 9 月 24 日（水）17 時となっています。

多数の参加申込をお待ちしております。

詳細は、大会ホームページ

<http://www.kazan.or.jp/doc/kazan2014/index.html#excursion>

をご覧ください。

1. 韓国・チェジュ島：10 月 29 日（水）～31 日（金）（2 泊 3 日）

案内者：イム チュンガン（任 忠完）・ジョン ヨンムン・ホ ミン・イ チャンヨル・他

参加費：3 万円程度

募集人数：30 名程度（9/3 現在申込 9 名）

問合せ先・申込先：イム チュンガン（任 忠完）
wan0226@hotmail.com（日本語可）

2. 島原半島ジオパーク：10月30日（木）～31日（金）
（1泊2日）

案内者：大野希一・松島 健

参加費：15,000円程度

募集人数：20名程度（9/13現在申込2名）

問合せ先・申込先：松島 健

mat@sevo.kyushu-u.ac.jp

（すでに申し込まれた方で、返答メールがない方は、
すいませんが、もう一度 松島宛に送信願います）

3. 九重および由布・鶴見岳：11月4日（火）～6日（木）
（2泊3日）

案内者：小林哲夫・田口幸洋

参加費：参加費：50,000円（宿泊2泊，昼食2回，旅行保険を含む）

募集人数：20名（9/19現在申込6名）

問合せ先・申込先：中西利典 kazanfu@gmail.com

4. 五島福江火山 11月5日（水）（1日）

案内者：柵山徹也・奥野 充

参加費：9000円（旅行保険500円を含む）

募集人数：20名（9/19現在申込12名）（催行決定）

問合せ先・申込先：柵山徹也

fukue.fieldtrip.2014@gmail.com

（上記のお知らせは火山学会メーリングリストに9月20日送信しました）

【日本火山学会2014年秋季大会アルバイト募集のお知らせ】

日本火山学会大会委員会

日本火山学会2014年秋季大会のアルバイトを募集について、連絡いたします。

2014年11月1日（土曜日）～11月4日（火曜日）において、福岡大学におきまして火山学会秋季大会，および関連の行事が行われます。

学会期間中，学会運営に関して手伝っていただけるアルバイトの方を以下のように若干名募集いたします。

アルバイトの対象：学部学生および大学院生

アルバイトの人数：若干名

アルバイトの条件：時給1000円，交通費支給なし

※アルバイト時間が半日以上になる場合は，昼食代を支給します。

アルバイト時間：11月1日午後～11月4日午後の間で，半日単位ごと。

アルバイト内容：会場準備，会場撤収，学会・懇親会受付，講演会におけるタイムキーパー，照明，マイク係

申し込み締め切り：10月14日（火）17時。応募人数を超えた場合は，原則先着順とさせていただきます。

申込・問い合わせ先：kazan-gakkai@kazan.or.jp

アルバイト申し込みフォーム

メール件名「火山学会アルバイト応募」

1. 名前（ふりがな）

2. 所属

3. 学年

4. 連絡先電話番号

5. 連絡先メールアドレス

6. 以下のうち，可能な時間枠（具体的な時間は個別に相談）

11月1日午後12：00-（会場準備および支援など）

11月2日午前8：45-（会場準備および支援など）

11月2日午後12：00-（会場支援など）

11月3日午前8：45-（会場支援など）

11月3日午後13：30-（会場支援など）

11月3日懇親会受付18：00-

11月4日午前8：45-（会場支援など）

11月4日午後13：00-（会場撤収）

7. 特があれば希望の仕事など

8. その他

（上記のお知らせは火山学会メーリングリストに9月22日送信しました）

【2014年秋季大会の現地討論会について】

既にお知らせした通り「島原半島ジオパーク」と「九重および由布・鶴見岳」は中止になり，「韓国・チェジュ島」（申込者：14名）と「五島福江火山」（申込者：19名）のみを実施します。

申込者の方には，それぞれ受付確認のメールを送信しており，後日，集合解散やコース，参加費の支払についての詳細も届くと思います。既に申し込まれたにも関わらず，まだ何も連絡を受け取っていない方は，至急，現地討論会の連絡先にお問い合わせ下さい。

「韓国・チェジュ島」10月29日（水）～31日（金）

連絡先：イム チュンガン（任 忠完）

wan0226@hotmail.com

「五島福江火山」11月5日（水）

連絡先：柵山徹也 fukue.fieldtrip.2014@gmail.com

以上。

2014年秋季大会実行委員会

（上記のお知らせは火山学会メーリングリストに9月26日送信しました）

【秋季大会 暫定プログラム（学術講演会）公開】

秋季大会の暫定プログラムが出来ましたので公表します。

講演を申し込まれた方は、以下のウェブサイトから、各自の発表日時、発表形態（口頭・ポスター）をご確認ください。

尚、暫定プログラムのため、正式なプログラムは後日公開します。

A 会場 <http://www.kazan.or.jp/doc/kazan2014/programA.html>

B 会場 <http://www.kazan.or.jp/doc/kazan2014/programB.html>

C 会場 <http://www.kazan.or.jp/doc/kazan2014/programC.html>

ポスター <http://www.kazan.or.jp/doc/kazan2014/programP.html>

間違い等ありましたら、学会事務局までお知らせください。

（上記のお知らせは火山学会メーリングリストに10月3日送信しました）

【緊急学術セッションへの講演申し込み開始】

秋季大会では、本年8月3日に発生した口永良島火山および9月27日に発生した御嶽山火山について緊急の学術セッションを開催します。セッション開催は11月2日を予定しています。

発表希望者は Web により講演をお申し込み下さい。講演申し込みと、予稿集原稿の提出をもって受付とします。発表形態は、基本的にポスター発表とします。口頭発表については事前に大会委員会から基調講演を依頼予定ですが、特に口頭発表を希望される方はその旨メールでご連絡ください。会場の制約上、ご希望に添えない場合もあります。また、緊急セッションについては秋季大会の通常発表数の制限（筆頭になれるのは口頭とポスター1件ずつ）には数えませんが、基本的に発表者1人につき1件とさせていただきます。

また口頭発表の演者、ポスター発表の説明者は維持会員または学会会員であることが必要です。

Web による申し込みの場合（締切日：10月16日（木曜日）午後4時）

講演申し込み URL

<http://www.kazan.or.jp/doc/kazan2014/application.html>

予稿原稿（PDF ファイル）送信先（郵送・FAX では受け付けません）

E-mail : kazan-taikai@ymail.plala.or.jp

送信メールの件名 (Subject) は予稿原稿：12345678 (←

受付番号) 添付ファイル名には、受付番号を使って 12345678.pdf としてください。

予稿原稿（PDF 原稿）は、10月16日（木）午後4時までにメール添付でお送りください。本緊急セッションに投稿済の講演要旨の差し替えも10月16日まで受け付けます。

（上記のお知らせは火山学会メーリングリストに10月5日送信しました）

【学術緊急セッションへの投稿締切について（再送）】

11月2日に予定しております秋季大会学術緊急セッションへの投稿は、明後日16日午後4時が締切となっております。

発表を予定している会員の皆様は、締め切りまでの投稿をお願いいたします。なお、発表申し込み及び予稿原稿の提出をもって投稿受付となりますので、よろしくお願いいたします。

詳しくは、火山学会秋季大会ウェブサイトをご覧ください。

<http://www.kazan.or.jp/doc/kazan2014/>

投稿サイトはこちらです：

<http://www.kazan.or.jp/doc/kazan2014/application.html>

（上記のお知らせは火山学会メーリングリストに10月14日送信しました）

【秋季大会の懇親会の事前申し込みの延長について】

本日17時までの懇親会の事前申し込みを22日（水）17時までに延長します。

皆様の事前の申し込みをお待ちしています。

事前申し込みの特典として、一般、学生ともに1000円割引します！

（上記のお知らせは火山学会メーリングリストに10月20日送信しました）

【公開講座など、一般向けの行事のチラシ】

11月1日、2日に開催される防災シンポ、公開講座、ジオパーク関連セッションのチラシです。

皆様のご所属機関などの適当な場所にご掲示いただけると幸いです。

<http://www.kazan.or.jp/doc/kazan2014/images/Chirashi.pdf>

2014年秋季大会実行委員会

（上記のお知らせは火山学会メーリングリストに10月20日送信しました）

【秋季大会プログラムの公開】

日本火山学会の皆さま

11月2～4日に福岡市の福岡大学で開催される秋季大会学術講演会には182件の講演申込がありました。

皆さんの積極的な発表申込ありがとうございます。

大会ホームページ pdf 版プログラムを公開しましたのでご覧ください。

<http://www.kazan.or.jp/doc/kazan2014/images/VSJ2014program.pdf>

なお、11月2日に開催される「緊急学術セッション」につきましては、印刷が間に合いませんでしたので、

<http://www.kazan.or.jp/doc/kazan2014/>

にて、公開します。また講演予稿集につきましても、「緊急学術セッション」で発表される講演予稿につきましては、大会会場にて別冊で配布します。

(上記のお知らせは火山学会メーリングリストに10月23日送信しました)

【緊急防災シンポジウムのご案内】

日本火山学会のみなさま

火山防災委員会では、今回の御嶽山の火山災害を受けまして、11月2～4日に福岡市の福岡大学で開催される火山学会に先立ち、11月1日に、以下の内容で緊急の防災シンポジウムを開催いたします。

当シンポジウムでは、「火山研究者として今後どのように火山災害の軽減に貢献していくのか」をみなさまと議論したいと考えております。

ご多忙のことと存じますが、ご参加いただけますようよろしくお願いいたします。

○緊急防災シンポジウム (学会員対象)

日時：11月1日 16時～18時

場所：福岡大学中央図書館多目的ホール A会場

パネルディスカッション形式

議論の内容

- ・水蒸気爆発(噴火)災害の軽減のために何をすべきか、特に情報の共有について
- ・火山防災委員会として地元自治体等にどのような支援活動が可能か
- ・火山防災委員会としてのどのような研究調査をおこなうか

話題提供

- ・2014年噴火の推移と災害、登山者向けの防災体制(及川輝樹氏、産総研)
- ・噴火時の観測体制と情報伝達(仮題)(山岡耕春氏、名古屋大)
- ・災害担当部局への情報伝達(仮題)(石峯康浩氏、国

立保健医療科学院)

なお、11月1日の午前中には以下のように公開シンポジウムも開催しておりますので、こちらも積極的にご参加いただけますようよろしくお願いいたします。

○防災シンポジウム 10時～12時 (A会場)

9:30:会場

10:00:開会の挨拶

10:05-10:45

山里 平 氏(鹿児島地方気象台長)

「九州の火山活動の現状と観測体制、防災体制」

10:45-10:55 休憩

10:55-11:35

井口正人 氏(京都大学防災研究所教授)

「九州の火山における火山噴火予知と災害予測-インドネシアの火山噴火からのフィードバック」

11:35-12:00 質疑応答

お問い合わせは、火山防災委員会 吉本充宏(myoshi@mfri.pref.yamanashi.jp)までお願いいたします。

(上記のお知らせは火山学会メーリングリストに10月24日送信しました)

【懇親会事前申込の締め切りについて】

会員各位

火山学会の懇親会事前申込を締め切りました。80名を超える申込があり、盛会となること間違いなしです。ありがとうございます。

今後は、大会窓口で受け付けます。皆様のご参加をお待ちしております。

どうか宜しくお願ひします。

日本火山学会 2014年秋季大会実行委員会

(上記のお知らせは火山学会メーリングリストに10月24日送信しました)

【日本火山学会 60周年記念シンポジウム】

日本火山学会員の皆様

日本火山学では、火山学会の60周年(2015年)に向け、火山学の現状を把握し、今後推進すべき課題と方策の検討を行う事業を行っております。

これに関連しまして、各方面で活躍されている方々に現状認識と展望をお聞きし、また、学会員の皆さまから広くご意見伺う機会を持ちたいと考えまして、以下の会合を開催します。

限られた時間ではございますが、どうぞ、ご参加ください。

11月3日

9:00-11:50 60周年記念シンポジウム (A会場)

12:00-13:00 シンポジウム講師を交えて自由討論
(B会場)

昼食をご持参頂き、食事をしながら議論したいと思います。
~~~~~

日本火山学会 60周年記念事業委員会  
委員長 市原美恵

(上記のお知らせは火山学会メーリングリストに10月31日送信しました)

○学会誌「火山」関係

【「火山」59巻3号 目次】

「火山」59巻3号・目次をアナウンスいたします。

目次・掲載内容のほか、メーリングリスト限定、著者からの一言メッセージをご覧ください。  
=====

・論説「論説「男体火山の最近17,000年間の噴火史」  
著者：石崎泰男・森田考美・岡村裕子・小池一馬・宮本亜里沙・及川輝樹 男体火山の最近17,000年間の噴

火史を、山頂火口内～近傍と北東山麓で観察される噴出物層序と放射性炭素年代測定をもとに明らかにしました。この研究により、男体火山では、17 cal. ka BP, 約12 cal. ka BP, 約12～8 cal. ka BP, 約8 cal. ka BP, 約7.5 cal. ka BP, 約7 cal. ka BP に山頂火口内で噴火が起きたことが明らかになりました。約7 cal. ka BP以降の噴出物を火口内及び山麓において確認できないことから、男体火山は、最近約7,000年間、活動を停止している可能性が高いと考えられます。

・ニュース

日本の火山活動概況(2014年5月～6月)

その他のニュース

・追悼

「下鶴先生のご逝去を悼む」

鍵山恒臣  
=====

(上記のお知らせは火山学会メーリングリストに10月2日送信しました)